

第90回

# 日本社会学会大会

第一日 2017年11月4日(土)

第二日 2017年11月5日(日)

—開催校—

東京大学本郷キャンパス



# 大会次第

日 時	研究発表等	総会・役員会等	会 場
11月3日(金) 11:00～13:00 13:00～17:00 17:30～19:30		三役打ち合わせ 理事会 拡大評議員会	文学部教員談話室 文学部教員談話室 文学部教員談話室
11月4日(土) 8:30～ 9:30～12:30 12:40～13:20  13:30～14:50 14:50～15:00 15:10～18:10 15:10～18:10 18:30～20:00	受付開始 一般研究報告(1)   一般研究報告(2) 社会学教育委員会企画 テーマセッション	三役打ち合わせ 研究活動委員会 国際交流委員会(ランチミーティング) IJJS編集委員会 常任社会学評論編集委員会 研究情報支援委員会 倫理委員会 財務委員会 社会学教育委員会 総会 学会奨励賞表彰式  懇親会	法文2号館「三友館」 各教室 法文1号館213教室 法文1号館210教室 法文1号館310教室 法文1号館117教室 法文1号館116教室 ガラス棟304教室 ガラス棟303教室 法文1号館313教室 法文1号館218教室 法文2号館1番大教室 法文2号館1番大教室 各教室 法文2号館1番大教室 生協第二食堂
11月5日(日) 8:30～ 9:30～12:30 9:30～12:30 9:30～12:30 10:30～13:00 12:40～13:20  13:20～14:00 14:00～17:30	受付開始 一般研究報告(3) 日中ジョイントパネル 招待講演 ポスターセッション  中国社会学学会長講演 シンポジウム1 シンポジウム2 開催校シンポジウム	拡大社会学評論編集委員会 シンポジウム1打ち合わせ シンポジウム2打ち合わせ 開催校シンポジウム打ち合わせ	法文2号館「三友館」 各教室 法文2号館1番大教室 法文2号館2番大教室 山上会館2階会議室 法文1号館215教室 法文1号館213教室 法文1号館313教室 法文1号館218教室 法文2号館1番大教室 法文2号館1番大教室 ガラス棟101教室 法文2号館2番大教室

## 大会次第・備考

1. 大会参加費	一般会員 5,000 円	大学院生・学生会員	4,000 円
懇親会費	一般 4,000 円	大学院生・学生	3,000 円
当日参加費	一般会員 6,000 円	大学院生・学生会員	5,000 円
当日参加費	一般非会員 7,000 円	大学院生・学生非会員	6,000 円
当日懇親会費	一般 5,000 円	大学院生・学生	4,000 円

今年度の大会は、報告者数 560 名、来場者数 1,500 名を超えることから、初日朝の受付が例年になく混雑することが予想されます。そこで今大会では、原則として会員のみなさま全員に事前参加登録と参加費の事前振込をお願いしております。当日受付で参加費・懇親会費を支払われる場合は 1,000 円の割増となりますのでご注意ください（非会員の方は当日参加のみ受け付けます）。

事前参加登録についての詳細は同封の別紙をご覧ください。

2. 受付は法文 2 号館「三友館」です。受付後、必ず名札をご着用くださいますようお願いいたします。大会の運営上、名札をご着用になっていない場合には会場係が確認をさせていただくことがあります。

3. 抜き刷り・報告資料交換コーナーを山上会館地下 001・002 号室（会員控室と同じ部屋です）に設置いたします。参加者は論文抜き刷りや報告資料の残部などを置くことができます。出版社などが書籍・雑誌を展示販売する書籍・雑誌コーナーは法文 2 号館文学部教員談話室に設置します。

4. 会員控室は山上会館地下 001・002 号室です。クロークは設置いたしません。大会本部は法文 2 号館社会学共同研究室となります。

5. キッズスクウェア・東京ドームホテルにて託児サービスが実施されており、利用者には学会より利用料金の補助を実施しております。利用には事前申し込みが必要です。詳細は学会ホームページをご覧ください。

6. 大学周辺にはコンビニエンス・ストアや飲食店が多数ありますが、ビジネス街のため、大会二日目（日曜日）を休日とするところも少なくありません。なお、大会開催中、11 時～14 時の間、法文二号館地下食堂（本郷銀杏・メトロ）、11 時～16 時の間、第二購買部がご利用いただけます。詳細は東京大学生協ホームページにてご確認ください。

東大生協ホームページ：<http://www.utcoop.or.jp/index.html>

7. プログラムの修正・変更、報告要旨などについては学会ホームページの大会情報ページをご参照ください。

・日本社会学会 大会情報ページ：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/2017/11/04000000.php>

8. 大会開催校の連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学文学部社会学研究室

e-mail: [jss.annualmeeting.2017.contact@gmail.com](mailto:jss.annualmeeting.2017.contact@gmail.com)

## 会場までの交通案内

大会会場として使用する建物は、東大正門付近に集中しております。東大正門へは地下鉄丸ノ内線（本郷三丁目駅）、大江戸線（本郷三丁目駅）、南北線（東大前駅）が便利です。なお東大へのその他の公共交通機関については、大学ホームページをご参照ください。

本郷キャンパスアクセスマップ：[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html)

### ①新幹線でご到着の場合

「東京駅」→（地下鉄・丸の内線）→「本郷三丁目」→（徒歩）→「東大正門」

### ②飛行機でご到着の場合（羽田空港利用）

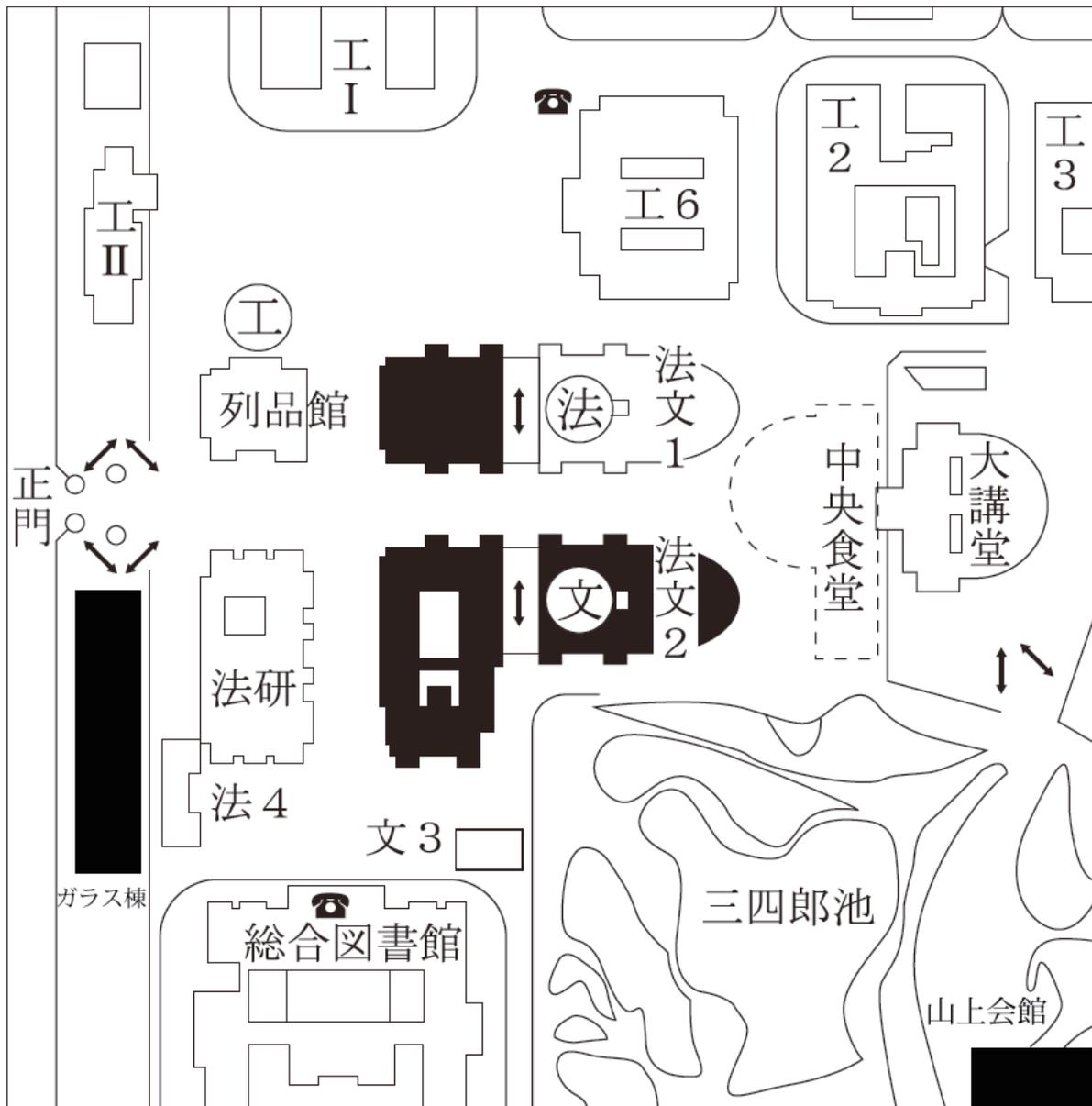
「羽田空港」→（東京モノレール）→「浜松町」→（JR線）→「東京駅」…〔①に同じ〕

### ③飛行機でご到着の場合（成田空港利用）

「成田空港」→（JR成田エクスプレス）→「東京駅」…〔①に同じ〕

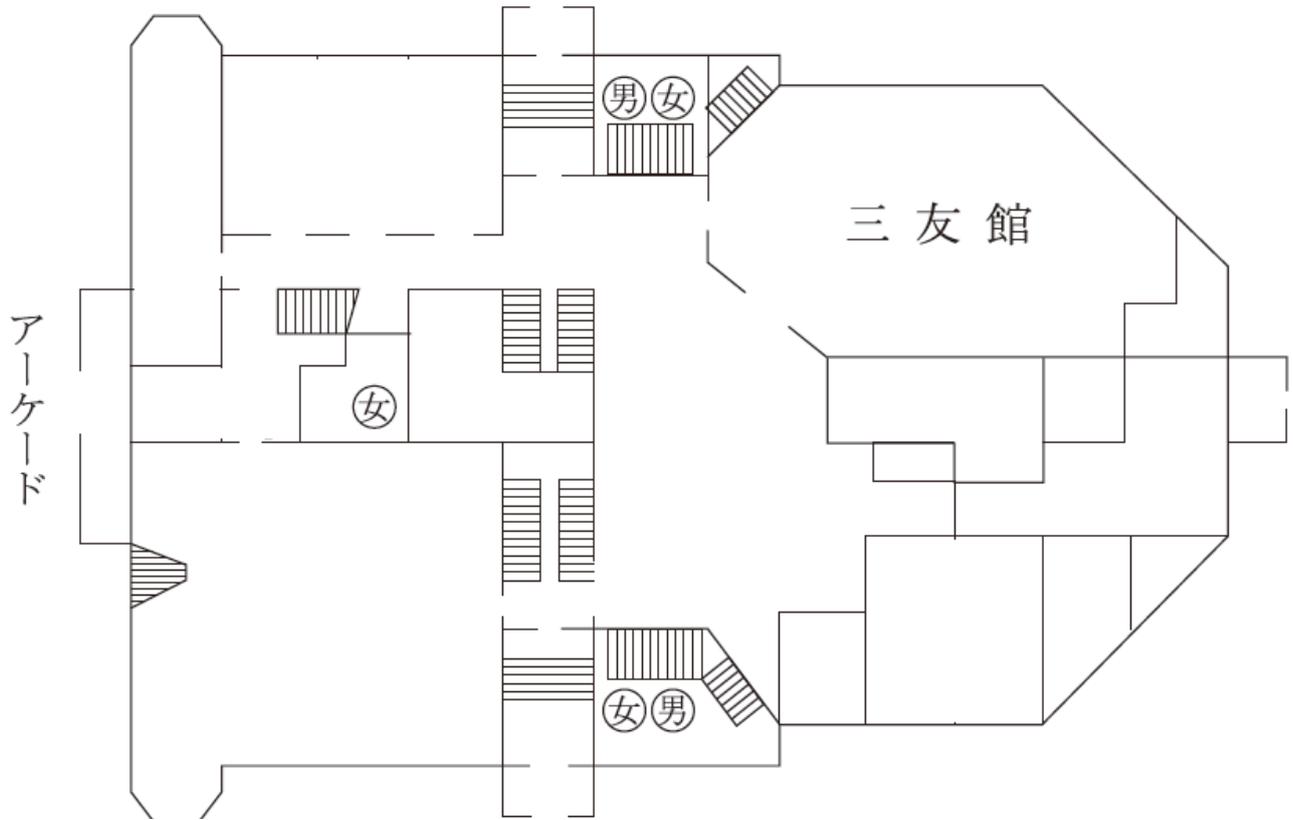
\*成田エクスプレスは全席指定となりますのでご注意ください。

## 会場案内（東京大学正門付近）

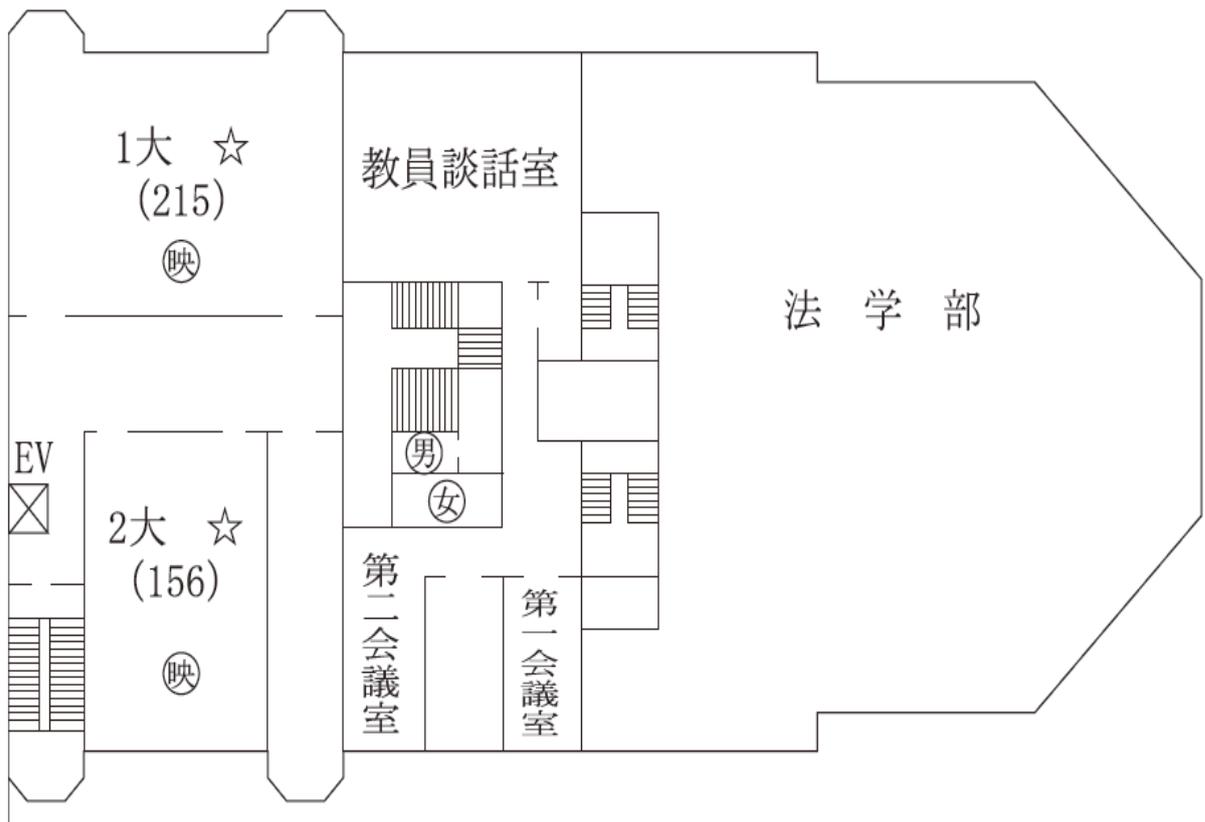


法文2号館 (受付・研究報告・シンポジウム等)

1階

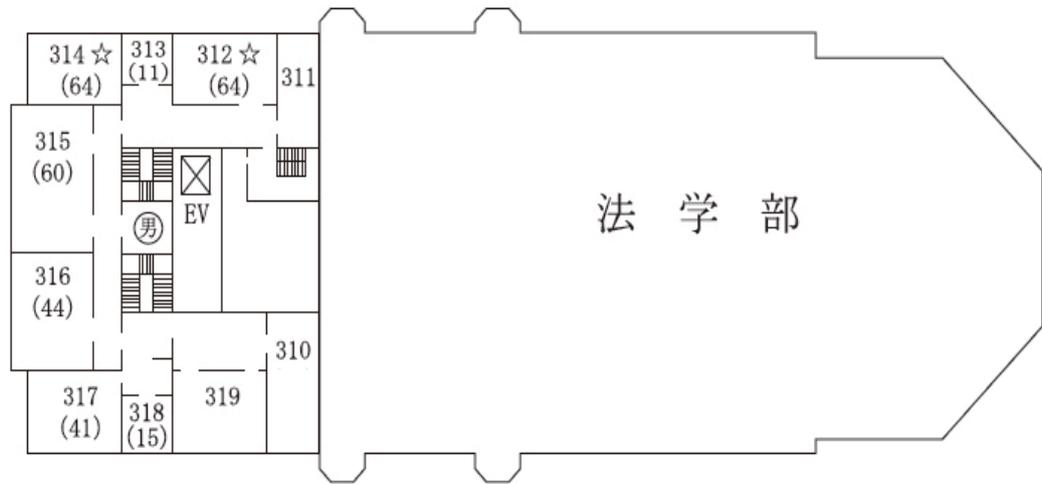


2階

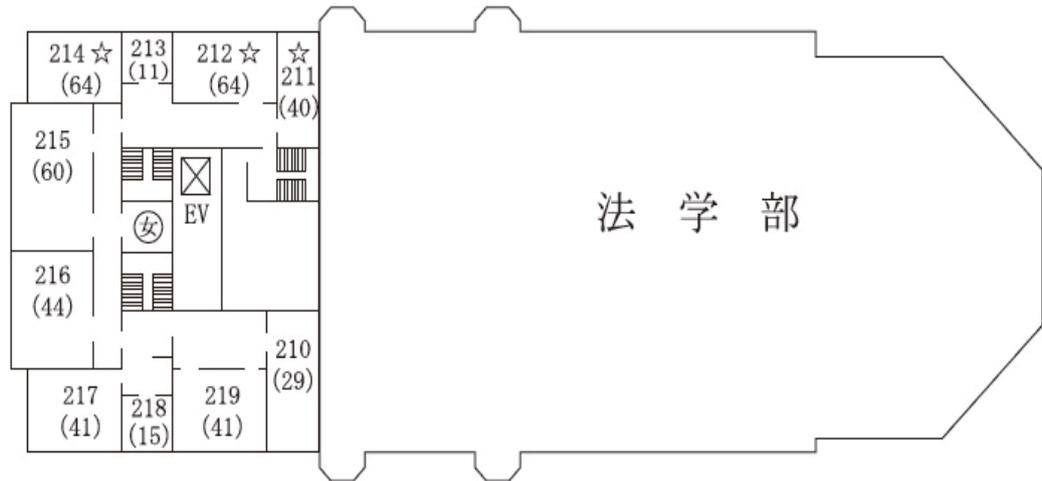


# 法文1号館 (研究報告)

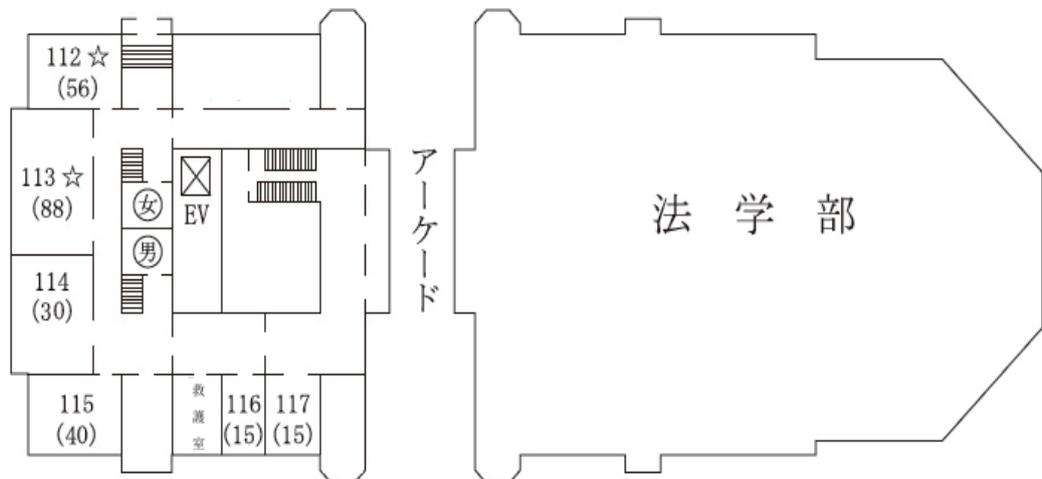
3階



2階

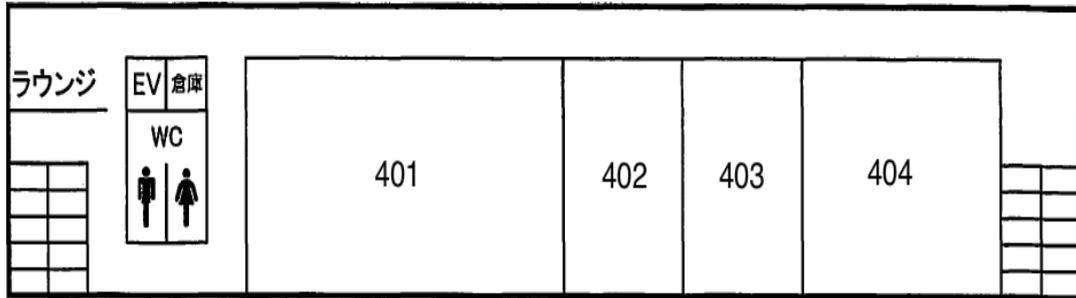


1階

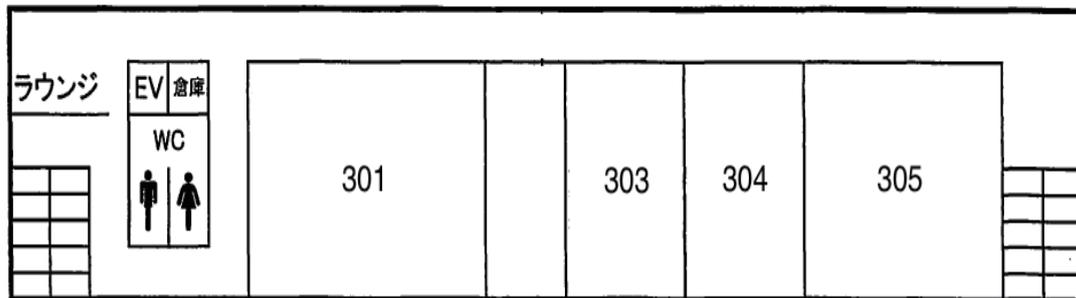


法学政治学系総合研究棟（ガラス棟：研究報告・シンポジウム）

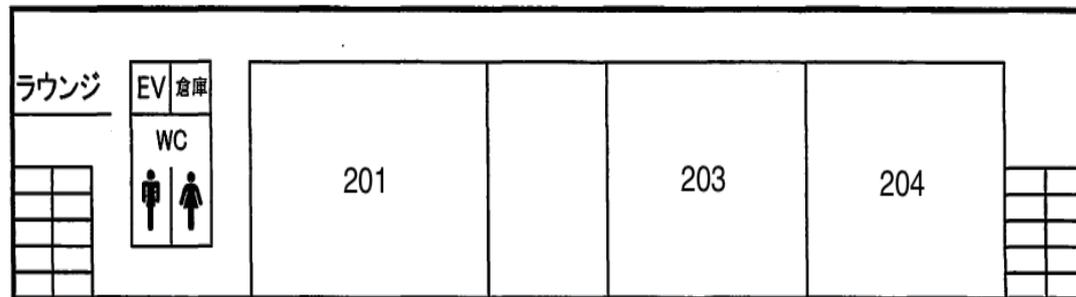
4階



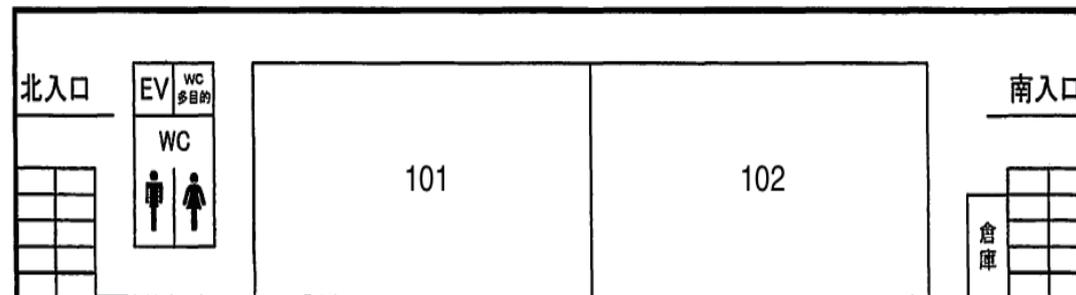
3階



2階



1階



# 研究報告をおこなううえでの注意事項

## 1. 共通事項

- ・今大会は 560 の報告、1500 名の来場が予定されております。各部会開始時間の受付混雑が予想され、報告に間に合わない報告者が多数発生する可能性があります。報告を予定されている方は、とくに事前参加登録及び参加費の振込をお済ませいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。また当日会場にてのお支払いは 1000 円増額となっておりますので、ご注意ください。
- ・万が一報告をキャンセルする場合は、すみやかに学会事務局 (jss@sociology.gr.jp) と大会本部 (jss.annualmeeting.2017.contact@gmail.com) の両方に連絡してください。
- ・タイトルと報告内容は申込時のものから変更できません。
- ・部会終了時に配布資料が残った場合は、報告者が持ち帰ってください。会員控室 (山上会館地下 001・002 号室) に設けられた「抜き刷り・報告資料交換コーナー」に置いて配布することもできます。
- ・開催校でのコピーサービスはありません。

## 2. 自由報告 (一般研究報告 I)、テーマセッション (一般研究報告 III) での報告

- ・部会開始時間の 5 分前までに会場に集合して、司会者と打ちあわせをしてください。
- ・報告時間は各報告 15 分で、そのあとに質疑応答が数分あります。原則として、報告開始後 10 分で第一ベル、15 分で第二ベルが鳴ります。
- ・配布するレジュメや資料のコピーは、報告時に最低 50 部、適宜余部を用意してください。追加資料を配布することもできます。残部は、途中参加者がとりやすい所に積むようにしてください。
- ・プロジェクトの利用をされる場合は、ご自身でパソコンをご持参ください。
- ・会場には、プロジェクトとパソコン接続用ケーブル (Mini D-sub15 ピン) が備わっております (Mac をご利用の場合はコネクタないアダプタを各自でお持ち下さい)。
- ・部会開始 15 分前に会場にお越しいただき、接続・動作の確認など機器の準備をしてくださるようお願いいたします。また、機器に不具合はつきものですので、万が一に備えて、機器なしでも滞りなく発表できるようにご自身でご準備ください。
- ・特に、テーマセッション、研究チームでのご報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、事前に報告者間で連絡調整をしてくださいますようお願いいたします。
- ・その他部会の進行については、司会者の指示にしたがってください。

## 3. ポスターセッション (一般研究報告 II) での報告

- ・ポスターセッションの会場は 2 つに分かれています。会場案内に従い、44 ページにある発表番号 1 ~ 12 の方は山上会館 2 階 201・202 会議室、発表番号 13 ~ 17 の方は 203 教室にて報告をおこなってください。
- ・部会開始時間の 10 分前までに会場に集合して、監督者と打ちあわせをしてください。
- ・ポスターの掲示スペースは、幅 90cm、高さ 120cm 程度です (A0 判が入ります)。
- ・ポスターの掲示場所は、プログラムに基づいて割りふられています。
- ・報告時間は 2 時間 30 分です。時間中は基本的にポスターの前において、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨伝えてください。無断で長時間不在の場合、報告が取り止めとされることがあります。
- ・資料を配布することもできます (最低 50 部用意することを強く推奨します)。
- ・その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

## 部会一覧

教室番号	11月4日(土)		11月5日(日)
	9:30~12:30	15:10~18:10	9:30~12:30
	一般研究報告(1)	一般研究報告(2)	一般研究報告(3)
【法文2】 1番大教室	テーマセッション1 社会学を基盤にした新しい専門職の可能性	社会学教育委員会企画テーマセッション	日中ジョイントパネル
2番大教室	性・ジェンダー(1)		招待講演
【山上会館】 2階会議室			ポスターセッション(10時30分~13時00分)
【法文1】 112	階級・階層・移動(1)大都市における格差拡大の進行過程とその社会的帰結	階級・階層・移動(2)2015年SSM調査分析結果	階級・階層・移動(3)
113	テーマセッション2 障害の社会学(1) ★	テーマセッション9 障害の社会学(2) ★	福祉・保健・医療(3)
114	民族・エスニシティ(1)	民族・エスニシティ(3)	人口
115	文化・社会意識(1)「21世紀の消費生活に関する調査」を通して	文化・社会意識(3)	文化・社会意識(5)
211	民族・エスニシティ(2)統合高等審議会報告書にみる移民のフランス的統合	国際・エリアスタディ	民族・エスニシティ(4)
212	テーマセッション3 ロードサイドの文化社会学	テーマセッション10 都市空間の変容を考える	都市
214	テーマセッション4 <文化遺産>と<歴史的環境>の交差と展開を目指して(1)	テーマセッション11 <文化遺産>と<歴史的環境>の交差と展開を目指して(2)	家族
215	研究法・調査法(1)	研究法・調査法(2)	研活テーマセッション10 社会調査法研究の新しい展開
216	宗教(1)	研活テーマセッション4 ポスト世俗化時代における宗教と社会	宗教(2)
217	福祉・保健・医療(1)	福祉・保健・医療(2)	福祉・保健・医療(4)
219	産業・労働・組織(1)	産業・労働・組織(2)	産業・労働・組織(3)
310	教育(1)	教育(2)	テーマセッション16 社会学とマンガ研究
311	情報・コミュニケーション	知識・科学	福祉・保健・医療(5)
312	研活テーマセッション1 モノと人の社会学(1)	研活テーマセッション5 モノと人の社会学(2)	テーマセッション17 専門知の『コミュニケーション』的転回批判
314	文化・社会意識(2)	文化・社会意識(4)	文化・社会意識(6)
315	農山漁村	研活テーマセッション6 農業・農村地域の社会解体的危機に抗する<住民の力>	地域社会・地域問題(5)
316	地域社会・地域問題(1)	地域社会・地域問題(2)	地域社会・地域問題(3) 沖縄の自治会と自衛隊基地
317	差別・マイノリティ	社会病理・逸脱	テーマセッション18 Becoming "Victims"
319	災害(1)	災害(2)	地域社会・地域問題(4) 祭礼の危機と担いのしくみ
【ガラス棟】 101	環境(原発問題)	研活テーマセッション7 原子力災害と社会学	権力・政治
102	性・ジェンダー(2)	性・ジェンダー(3)	性・ジェンダー(4)
201	テーマセッション5 社会学理論と<経験的なもの>の再構成	テーマセッション12 社会学における理論と実証	テーマセッション19 方法としての構築主義の遺産を査定する

## 部会一覧（承前）

教室番号	11月4日（土）		11月5日（日）
	9：30～12：30	15：10～18：10	9：30～12：30
	一般研究報告（1）	一般研究報告（2）	一般研究報告（3）
【ガラス棟】 203	テーマセッション6 エスノメソ ドロジーと会話分析の半世紀 (1)	テーマセッション13 エスノメソ ドロジーと会話分析の半世紀 (2)	テーマセッション20 エスノメソ ドロジーと会話分析の半世紀 (3)
204	テーマセッション7 アートベー ス・リサーチの可能性と実践 (1)	テーマセッション14 アートベー ス・リサーチの可能性と実践 (2)	研活テーマセッション11 公的 統計を利用した二次分析
301	テーマセッション8 社会理論 と運動・紛争研究	テーマセッション15 『ポリテ ィカル・コレクトネス』の社会 的文脈再考	社会運動
303	学史・学説 (1)	学史・学説 (2)	
304	理論 (1)	理論 (2)	
305	研活テーマセッション2 移民 受け入れを考える (1)	研活テーマセッション8 移民 受け入れを考える (2)	テーマセッション21 ムスリ ム移動者とその子孫の社会学
402	歴史・社会史 (1)	歴史・社会史 (2)	子ども・青年・中高年
403	Session in English (1)	Session in English (2)	
404	研活テーマセッション3 『概念 分析の社会学』の展開 (1)	研活テーマセッション9 『概念 分析の社会学』の展開 (2)	研活テーマセッション12 学 際性、もしくは当事者との協働 における質的研究

★テーマセッション「障害の社会学」では、教室選定の際、バリアフリーに留意しております。  
また視覚障害等により、紙媒体のレジユメを読むことが難しい方には、各報告者が作成した報告資料の  
電子データを事前にお送りしますので、下記アドレスまでメールを下さい。  
榊原賢二郎 sakakibara\_kenjirou@yahoo.co.jp

# 研究報告題目

第一日 (11月4日)

一般研究報告 (1) (9時30分～12時30分)

## 学史・学説 (1)

教室 ガラス棟 303  
司会者 菊谷和宏 (一橋大学)

- |  |                   |               |
|--|-------------------|---------------|
| 1 社会学教科書におけるデュルケム社会学の伝えられ方——ディシプリン再生と社会学教育①                          | ○聖学院大学<br>日本学術振興会 | 横山寿世理<br>梅村麦生 |
| 2 知識社会的メディアとしての社会学教科書——ディシプリン再生と社会学教育②                               | 関西大学              | 川本彩花          |
| 3 初期デュルケム、ソシオロジとゾチオロギの交差——没後百年に                                      | 近畿大学              | 山下雅之          |
| 4 ポピュリズム、フランス学派、場の理論   | 同志社大学             | 落合仁司          |
| 5 社会的視点から国家を考える——マックス・ヴェーバーとヘルマン・ヘラー                                 | 京都大学大学院           | 羅太順           |
| 6 Max Weber の「価値自由」と「価値関係づけ」——「価値への自由」のテキストへの帰属                      | 王子総合病院附属看護専門学校    | 坂敏宏           |
| 7 多重対応分析を使用したブルデューの「界」の研究方法における諸問題——構造分析、標本抽出、変数調査、幾何学的データ分析の方法をめぐって | 立命館大学大学院          | 平石貴士          |

## 理論 (1)

教室 ガラス棟 304  
司会者 宮本孝二 (桃山学院大学)

- |   |                     |       |
|---|---------------------|-------|
| 1 リスク社会論の再解釈 ——バイオソーシャル・アプローチによる1つの試み                     | 日本女子大学              | 三原武司  |
| 2 前期作田における政治社会学——市民社会論・大衆社会論の批判的摂取に着目して                   | 東京女子大学              | 流王貴義  |
| 3 ゼロ年代日本の歴史社会学  | 首都大学東京              | 稲葉年計  |
| 4 構造化理論とイギリス・ニューレフト——R.ウィリアムズ、E.P.トムソンとの比較を通して            | 関東学院大学              | 高橋一得  |
| 5 日本の再帰性と日本の社会や市場   | 中京大学                | 中西真知子 |
| 6 1930年代における社会改良としての「社会学」的实践 ——赤神良讓の「変態社会学」的方法による「先端」研究から | 日本学術振興会<br>特別研究員 PD | 大尾侑子  |

## 研究法・調査法 (1)

教室 法文1号館 215  
司会者 杉野勇 (お茶の水女子大学)

- |   |                             |                     |
|---|-----------------------------|---------------------|
| 1 社会調査データの統合データクリーニングシステム開発の研究——DCSSの開発と試用  | 専修大学                        | 羅一等                 |
| 2 MuxViz —新しい社会ネットワーク分析の描画及び分析ツールの2017実装実験——UCINET、Netdraw、Pajekを超えたブレークスルーへ安田雪研究室実験からの報告 | 関西大学                        | 安田雪                 |
| 3 Schwartz の「価値観モデル」の実証的な検討——国際比較の視座からのデータ分析  | 青山学院大学                      | 真鍋一史                |
| 4 データの平均性と中心性   | 九州大学                        | 鈴木讓                 |
| 5 社会調査における接触率・協力獲得率・回収率と住居形態 ——JGSSに基づくオートロック付き集合住宅の分析                                    | ○大阪商業大学<br>大阪商業大学<br>大阪商業大学 | 孟哲男<br>岩井紀子<br>吉野智美 |
| 6 調査票調査における対象者の負担   | 三育学院大学                      | 篠原清夫                |
| 7 統計モデルを通じて何を知るべきか——ロジスティック回帰モデルを事例として  | 日本大学                        | 常松淳                 |

農山漁村

教室 法文1号館 315  
司会者 山本努 (熊本大学)

- 1 親世代から見た「他出子」認識と「他出子」本人の認識の差異——浜松市 静岡文化芸術大学 船戸修一  
天竜区佐久間町のA集落を事例として
- 2 人口減少地域におけるインバウンド観光振興と地域活性化 東海大学 本田量久
- 3 地方創生の主体と方向定位 神戸学院大学 金子勇
- 4 過疎地域における高齢者福祉とソーシャルキャピタル——韓国莞島郡にお 北海道大学大学院 金昌震  
ける高齢者福祉施設を事例に
- 5 産業都市における食と農の市民活動——定年帰農者を中心とした組織に注 名古屋文理大学 中村麻理  
目して

地域社会・地域問題(1)

教室 法文1号館 316  
司会者 和田清美 (首都大学東京)

- 1 地方都市における地域社会の形成過程についての研究——掛川市と静岡市 静岡英和学院大学 志田倫子  
の事例から
- 2 自主防災組織の組織化にみる現状と課題——秋田県仙北市を事例として 岩手県立大学 庄司知恵子
- 3 まちの居場所運営支援制度における課題検討——京都市の事例より 京都橘大学 小辻寿規
- 4 「子育ての社会化」をめぐる学童保育についての考察——地域における「協 山口大学 速水聖子  
働」の可能性
- 5 制度外インフォーマルな保育の研究——消費者・市民の活動を保障する一 公益財団法人 近本聡子  
時保育の事例から 生協総合研究所
- 6 先進産業都市豊田における地域秩序の動揺(1)——人口学的・社会的変化 ○名古屋大学 丹辺宣彦  
が突きつける課題 都留文科大学 山口博史  
名古屋文理大学 中村麻理
- 7 先進産業都市豊田における地域秩序の動揺(2)——女性にみるまちづくり ○愛知県立芸術 中根多恵  
活動参加の停滞と諸要因 大学  
名古屋大学 丹辺宣彦

産業・労働・組織(1)

教室 法文1号館 219  
司会者 小川慎一 (横浜国立大学)

- 1 地域社会研究のための職業概念の再検討——職業社会学から労働/産業社 東京大学 武岡暢  
会学へ
- 2 専門的外国人の定着/離職意向に与える日本企業内の要因について——外 東京大学大学院 園田薫  
国人の内的キャリアに着目して
- 3 現代日本における専門職と専門職大学院 明星大学 鶴沢由美子
- 4 制度変革期の専門職組織と成員の関係——独立行政法人化直後と10年後 同志社大学 藤本昌代  
の通時的分析
- 5 性別・職種別にみた専門職の勤続意識および同業異性の受容——「女性の 聖カタリナ大学 長尾由希子  
多い国家資格専門職」調査の分析から
- 6 採用面接での双方向的評価——複合ゲームにおける選択 東京大学大学院 井口尚樹
- 7 どうすれば顧客に品を試してもらえるか——寝具店の接客場面の会話分析 京都大学 平本毅

階級・階層・移動 (1) 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結

教室 法文1号館 112

司会者 山口恵子 (東京学芸大学)

- |   |        |               |
|---|--------|---------------|
| 1 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(1) 研究の概要および首都圏の階級構造と空間構造                              | 早稲田大学  | 橋本健二          |
| 2 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(2) 信頼感・社会関係資本に関する地域類型を考慮したマルチレベル分析：<br>社会地区分析と標本調査の接合 | 明治学院大学 | 浅川達人          |
| 3 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(3) アンダークラスの経歴・職歴・居住歴                                  | 東京大学   | 佐藤香           |
| 4 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(4) 首都圏アンダークラスのメンタルヘルス                                 | 東北学院大学 | 片瀬一男          |
| 5 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(5) アンダークラスの茫漠とした不安                                    | 早稲田大学  | 津田 (木村)<br>好美 |
| 6 大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究——<br>(6) 近代東京の下層階級：アンダークラスの系譜                               | 早稲田大学  | 武田尚子          |

環境 ( 原発問題 )

教室 ガラス棟 101

司会者 原口弥生 (茨城大学)

- |  |   |                                     |
|--|---|-------------------------------------|
| 1 原発被災地で〈住民になる〉論理——なぜ農地への働きかけは事故以前と<br>同じ周期リズムで続けるのか | 東北学院大学<br>大学院                           | 庄司貴俊                                |
| 2 福島親子の新しい日常への道程 (1) ——子どもの生活時間と心身の健康<br>との関連を中心に    | ○愛知県立大学<br>中京大学<br>中京大学<br>桃山学院大学       | 牛島佳代<br>成元哲<br>松谷満<br>阪口祐介          |
| 3 福島親子の新しい日常への道程 (2) ——リスク認知と生活への影響                  | ○中京大学<br>中京大学<br>愛知県立大学<br>桃山学院大学       | 松谷満<br>成元哲<br>牛島佳代<br>阪口祐介          |
| 4 福島親子の新しい日常への道程 (3) ——パネル調査の自由回答の変遷から               | ○中京大学<br>愛知県立大学<br>中京大学<br>桃山学院大学       | 成元哲<br>牛島佳代<br>松谷満<br>阪口祐介          |
| 5 笑う福島／笑わない福島——原発事故後のユーモアに関するコミュニケー<br>ション社会学的研究     | 一橋大学大学院                                 | 庄子諒                                 |
| 6 原子力発電問題とどのように向き合うか——社会意識・環境意識の認知空<br>間中における原発の位置づけ | ○東北大学<br>松山大学<br>山形大学<br>関西学院大学<br>中央大学 | 海野道郎<br>小松洋<br>阿部晃士<br>中野康人<br>篠木幹子 |

災害 (1)

教室 法文 1 号館 319  
司会者 西野淑美 (東洋大学)

- |   |         |      |
|---|---------|------|
| 1 東日本大震災後の住宅復興におけるコミュニティの形成 (1) —— 岩手県<br>釜石市の災害公営住宅におけるコミュニティ形成        | 岩手県立大学  | 吉野英岐 |
| 2 東日本大震災後の住宅復興におけるコミュニティの形成 (2) —— 宮城県<br>名取市美田園北地区における防災集団移転後のコミュニティ形成 | 尚絅学院大学  | 内田龍史 |
| 3 東日本大震災後の住宅復興におけるコミュニティの形成 (3) —— 原発避<br>難者向け復興公営住宅におけるコミュニティ形成        | いわき明星大学 | 高木竜輔 |
| 4 津波被災地における地域コミュニティの存立要件 —— 東日本大震災被災<br>地における地域コミュニティの解散過程の分析を通して       | 岩手県立大学  | 平井勇介 |
| 5 住宅復興プロセスにおける行政と地域社会のコンフリクト —— 石巻市雄勝<br>町の事例から                         | 東北大学大学院 | 松原久  |
| 6 熊本震災と社会関係資本 —— とくにフリーライダーの意味について                                      | 九州大学    | 三隅一人 |
| 7 地域社会学的災害研究から見た熊本地震と地区防災計画   | 専修大学大学院 | 金思穎  |

文化・社会意識 (1) 「21 世紀の消費生活に関する調査」を通して

教室 法文 1 号館 115  
司会者 中井美樹 (立命館大学)

- |  |                 |       |
|--|-----------------|-------|
| 1 調査設計と結果の概要 —— 「21 世紀の消費生活に関する調査」を通して (1)               | 立教大学            | 間々田孝夫 |
| 2 クリエイティブ志向とエシカル消費 —— 「21 世紀の消費生活に関する調査」<br>を通して (2)     | 日本学術振興会         | 畑山要介  |
| 3 SNS の利用と消費態度の関係 —— 「21 世紀の消費生活に関する調査」を通<br>して (3)      | 株式会社ビデオ<br>リサーチ | 朝倉真粧美 |
| 4 シェアリング・エコノミーにおける物質主義 —— 「21 世紀の消費生活に<br>関する調査」を通して (4) | 文京学院大学          | 寺島拓幸  |
| 5 消費主義と主観的幸福感の多元的な関連性 —— 「21 世紀の消費生活に関す<br>る調査」を通して (5)  | 信州大学            | 水原俊博  |
| 6 消費意識による消費文化のパターン分類 —— 「21 世紀の消費生活に関する<br>調査」を通して (6)   | 駒澤大学            | 廣瀬毅士  |

文化・社会意識 (2)

教室 法文 1 号館 314  
司会者 松浦雄介 (熊本大学)

- |   |                            |      |
|---|----------------------------|------|
| 1 欧州のラーメンから見る食とグローバル化   | 関西学院大学                     | 鈴木謙介 |
| 2 「観光化する鉄道」と鉄道愛好文化  | 関西大学大学院                    | 塩見翔  |
| 3 社会運動ツーリズム —— 「個人化」時代における抵抗と連帯の旅   | 立命館大学                      | 富永京子 |
| 4 占領期日本の米国人観光における「戦後日本」へのまなざし   | 北海道大学国際<br>広報メディア・<br>観光学院 | 遠藤理一 |
| 5 1980 年代中国の「アート・ワールド」における前衛美術の包摂と排除 ——<br>「現代芸術大展覧会」をめぐるキュレーターの言説実践に着目して | 東京大学大学院                    | 陳海茵  |

## 宗教 (1)

教室 法文1号館 216  
司会者 小島伸之 (上越教育大学)

- |                                      |         |      |
|--------------------------------------|---------|------|
| 1 祭りが生まれるとき —— 震災復興イベントの宗教社会学        | 東京工業大学  | 弓山達也 |
| 2 観音信仰にみる近世の感受性——その中国における物語の分析       | 京都学園大学  | 川田耕  |
| 3 「宗教」と「移動」——在韓日本人コミュニティを中心に         | 東海大学    | 李賢京  |
| 4 光明主義における仏教の現代化と宗教間対話 —— 宗教社会学的研究   | 東京女子大学  | 中村真人 |
| 5 争われる「信仰」、介入する「公」 —— 山口自衛官合祀拒否訴訟・再考 | 日本学術振興会 | 塚田穂高 |
| 6 「妊娠・出産」のスピリチュアリティ —— 「子宮本」の事例から    | 立教大学    | 橋迫瑞穂 |

## 情報・コミュニケーション

教室 法文1号館 311  
司会者 是永論 (立教大学)

- |  |          |       |
|--|----------|-------|
| 1 テレビニュースにおける発話形式の変化とその社会的要因に関する一考察                        | 北陸大学     | 轟里香   |
| 2 越境する中国人のコミュニケーションとグローバル化の影響 —— 在日中国<br>人留学生を事例として        | 同志社大学大学院 | 李文    |
| 3 世論形成に果たす地域メディアの役割  | 神戸女学院大学  | 景山佳代子 |
| 4 ICT を活用した会話分析技法の地平——コミュニティ・オーガニゼーシ<br>ョン論の社会学理論としての展開可能性 | 東京大学     | 島田昭仁  |
| 5 デジタルコモンズ論の枠組み再考——資源共有空間の社会学に向けて                          | 東京大学大学院  | 加藤謙信  |
| 6 「参加する」教養主義のメディア —— 雑誌『労働北九州』『緑と太陽』を事<br>例として             | 筑波大学大学院  | 野上亮   |
| 7 メディア報道の極化における新聞マンガの役割                                    | 東京情報大学   | 茨木正治  |

## 教育 (1)

教室 法文1号館 310  
司会者 尾嶋史章 (同志社大学)

- |   |          |      |
|---|----------|------|
| 1 社会変動の要因研究——明治前期の学制改革を主例として                        | 東北女子短期大学 | 西敏郎  |
| 2 家庭での親子の相互関係と子どもの学業成績——JLSCP を用いて                  | 東京大学     | 香川めい |
| 3 教育と社会経済的地位の構造——2015年SSM調査データを用いた分析                | 新潟大学     | 古田和久 |
| 4 設置体別にみた高校進学に対する学力と出身階層の影響——SSM調査デー<br>タを用いて       | 和歌山大学    | 西丸良一 |
| 5 時代状況が教育達成の階層差に与える影響——2005-2015年SSM調査デー<br>タを用いた分析 | 東京大学大学院  | 豊永耕平 |
| 6 「教育ゲームにおける学力の主観的認知完了による勉強期待」仮説・10年<br>後データによる検証   | 鹿児島大学    | 桜井芳生 |
| 7 歴史的出来事との遭遇と青年たちの危機的移行——炭鉱閉山によるライフ<br>コースの攪乱と軌道修正  | 早稲田大学大学院 | 笠原良太 |

福祉・保健・医療(1)

教室 法文1号館 217  
司会者 森川美絵 (津田塾大学)

- |   |   |          |       |
|---|---|----------|-------|
| 1 | 子どもとの同居と高齢者の受診行動——高齢者生活実態調査(1963年)の再分析から      | 帝京大学     | 石島健太郎 |
| 2 | 高齢期におけるボランティア参加と職歴についての検討——SSM2015調査データを用いた分析 | 滋賀大学     | 伊達平和  |
| 3 | 高齢者福祉の機能としての〈継承〉——北海道十勝清水町「松沢の郷」のモノグラフ        | 札幌学院大学   | 新田雅子  |
| 4 | 地域福祉とアソシエーション——神奈川県平塚市における「町内福祉村」の取り組み        | 東海大学     | 高木俊之  |
| 5 | 本土復帰前沖縄の高齢者福祉政策——家庭奉仕員制度を中心に                  | 立命館大学大学院 | 佐草智久  |
| 6 | 在留資格「介護」創設の意義についての研究——外国人介護労働者が日本社会へ与える影響について | 立教大学大学院  | 近藤秀将  |
| 7 | 介護保険制度の日独比較——認知症高齢者の要介護認定過程に着目して              | 九州看護福祉大学 | 竹中健   |

性・ジェンダー(1)

教室 法文2号館 2番大教室  
司会者 久保田裕之 (日本大学)

- |   |   |                                     |                          |
|---|---|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 | 大卒女性の専攻間賃金格差はいつ生じたのか——2015年SSM調査の分析                           | 京都大学大学院                             | 山本耕平                     |
| 2 | 女性の労働とサブシステムをめぐる一考察——80年代フェミニズムにおける総撤退論を再考する                  | 日本女子大学<br>大学院                       | 伊吹美貴子                    |
| 3 | Right Tools for the Right Data                                | The Chinese University of Hong Kong | Li Benjamin<br>Yueta Man |
| 4 | Breaking Barriers   | 早稲田大学                               | 張 潔                      |
| 5 | Work-life Balance in Mainland China                           | 九州大学                                | 李 睿                      |
| 6 | ハラスメントのないスポーツ組織に向けて——大学運動部における「女子マネージャー」の日加比較研究               | 大阪府立大学<br>大学院                       | 関めぐみ                     |
| 7 | 世帯内無償労働のジェンダー不平等をどのように把握するか? ——「生活時間のやりくり・組み立て」という新たな分析枠組みの導入 | 首都大学東京<br>大学院                       | 柳下実                      |

性・ジェンダー(2)

教室 ガラス棟 102  
司会者 三部倫子 (石川県立看護大学)

- |   |  |         |       |
|---|--|---------|-------|
| 1 | 商業世界における性別越境概念   | 東洋大学    | 石井由香理 |
| 2 | 「海外駐在員配偶者女性」カテゴリーと自己性——女性達の語りから                                  | 立教大学大学院 | 三浦優子  |
| 3 | 現代日本社会における「母親役割規範」の非普遍性——女性雑誌『VERY』にみる理想の母親像とインターネット批判の分析より      | 大阪府立大学  | 石原田明美 |
| 4 | 現代的な「女性」ステレオタイプ  | 関東学院大学  | 高橋幸   |
| 5 | 「ライフスタイル移住」に関するジェンダー論的考察——戦後アメリカに移住した日本人女性たちへのライフヒストリーインタビューをもとに | 武蔵大学    | 中西祐子  |
| 6 | 『婦人公論』における純潔規範の崩壊過程  | 神戸大学    | 桶川泰   |
| 7 | 日中戦争期日本における「家事労働」概念  |         | 田中良一  |

差別・マイノリティ

教室 法文1号館 317  
司会者 西川知亨 (関西大学)

- |  |         |      |
|--|---------|------|
| 1 関連豫防法下における「癩豫防ニ関スル法律」の法理と沖縄社会——戦前期沖縄社会と「癩豫防ニ関スル法律」との関連より | 山口県立大学  | 中村文哉 |
| 2 旧隣保館の地域外出身の指定管理者による〈隣保事業的实践〉と同和地区——京都市の事例から              | 関西学院大学  | 中川理季 |
| 3 アメリカ型多文化主義と「マイノリティの優遇」論                                  | 立命館大学   | 南川文里 |
| 4 フランスの移民教育にみられる共和国理念の機能——包摂ゆえの排除                          | 東京情報大学  | 原岡蓉子 |
| 5 スティグマを負わされたアイデンティティと〈回復〉の希求——「家族の犯罪」をめぐる経験の組織化           | 筑波大学大学院 | 高橋康史 |
| 6 自死遺族の「語り」に対する封じ込めとは                                      | 東京学芸大学  | 水津嘉克 |

民族・エスニシティ (1)

教室 法文1号館 114  
司会者 鍛冶致 (大阪成蹊大学)

- |  |               |                |
|--|---------------|----------------|
| 1 滞日ビルマ系難民二世をめぐる教育戦略                     | 名古屋学院大学       | 人見泰弘           |
| 2 在日朝鮮人学生における〈祖国〉の意味——朝鮮高校生の〈祖国訪問〉同行調査より | 愛知県立大学        | 山本かほり          |
| 3 移民第二世代は学校経験をどう語るか(1)——インドシナ系ニューカマーの事例  | 日本女子大学        | 清水睦美           |
| 4 移民第二世代は学校経験をどう語るか(2)——中国系ニューカマーの事例     | 職業能力開発総合大学校   | 坪田光平           |
| 5 移民第二世代は学校経験をどう語るか(3)——ブラジル系ニューカマーの事例   | 鳥取大学          | 児島明            |
| 6 移民第二世代は学校経験をどう語るか(4)——ペルー系ニューカマーの事例    | 静岡県立大学        | 角替弘規           |
| 7 移民第二世代は学校経験をどう語るか(5)——フィリピン系ニューカマーの事例  | ○中京大学<br>東京大学 | 三浦綾希子<br>額賀美紗子 |

民族・エスニシティ (2) 統合高等審議会報告書にみる移民のフランス的統合

教室 法文1号館 211  
司会者 笠間千浪 (神奈川大学)

- |  |  |                      |
|--|--|----------------------|
| 1 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(1)——「統合」をめぐる言説変化を中心として             | 駒澤大学                                     | 中野裕二                 |
| 2 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(2)——「受入統合契約」導入のインパクトを考える           | ○都留文科大学<br>一橋大学大学院<br>ニース・ソフィア・アンティポリス大学 | 野村佳世<br>南波慧<br>田島佑実子 |
| 3 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(3)——「共同体主義」概念とマイノリティをめぐる言説         | 早稲田大学                                    | 大嶋えり子                |
| 4 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(4)——ムスリムアイデンティティをめぐる統合政策の変化を中心として  | 明治学院大学                                   | 浪岡新太郎                |
| 5 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(5)——〈第二世代〉と〈女性〉の社会経済的統合と公共政策へのアクセス | 東洋大学                                     | 村上一基                 |
| 6 統合高等審議会報告書(1991～2013年)にみる移民のフランス的統合(6)——教育施策の対象と学校の使命の変化に着目して          | ○浜松学院大学<br>大阪大学大学院                       | 島埜内恵<br>園山大祐         |

歴史・社会史(1)

教室 ガラス棟 402  
司会者 野上元 (筑波大学)

- |   |              |      |
|---|--------------|------|
| 1 生命保険の歴史社会学に向けて——19世紀ドイツにおける発展を事例に                   | 東京大学大学院      | 坂井晃介 |
| 2 パークとデュボイス——その調査方法論と人種観の差異をめぐって                      | 東京大学         | 北田暁大 |
| 3 ドイツ統一と大学改革——改革前史の東ドイツ社会学者ライフヒストリーの分析                | 愛知大学         | 飯島幸子 |
| 4 「民間人」であるがゆえの葛藤と専門性——更生保護制度の成立・展開過程における保護司の処遇実践に着目して | 立教大学         | 加藤倫子 |
| 5 大正期の終末論と都市空間——内村鑑三のキリスト再臨運動                         | 台湾国立高雄第一科技大学 | 赤江達也 |
| 6 地域社会研究所の社会実験——「コミュニティ」の調査研究活動の検討を通じて                | 東京大学大学院      | 渡邊隼  |
| 7 炭鉱の生産現場における機械化の受容過程——太平洋炭鉱労働組合ミニ新聞『5分間ニュース』紙面の分析から  | 早稲田大学大学院     | 清水拓  |

Session in English (1)

教室 ガラス棟 403  
司会者 小川玲子 (千葉大学)

- |   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| 1 Second Homes, EU Visas, and 'Buying into' the Welfare State:—A Qualitative Study of Spain's Golden Visa Program | University of Melbourne                          | Max Holleran          |
| 2 A Three-Stage Model of Consensus in American Bioethics Commissions  | Sophia University                                | 額賀淑郎                  |
| 3 Medical Corruption in China—The Case of GSK   | Columbia University                              | Hurwitz Joshua Morris |
| 4 Laugh and Grow Fat—Happiness Affects Body Mass Index among Urban Chinese Adults                                 | Southwestern University of Finance and Economics | 李双龍                   |
| 5 The Influence of the Family in the Withdrawal from Self-Employment—Using the 2015 SSM Survey Data               | Nanjing University                               | Yunsong Chen          |
| 6 Family Instruction: What did they tell us?—In the Context of Globalization                                      | Osaka University                                 | 平尾一朗                  |
|   | Institute of Chinese Culture                     | Ma Huidi              |

テーマセッション 1 社会学を基盤にした新しい専門職の可能性

教室 法文2号館 1番大教室  
司会者 檜田美雄 (神戸市看護大学)

- |  |        |       |
|--|--------|-------|
| 1 社会学を基盤にした新しい専門職?                                       | 横浜国立大学 | 江原由美子 |
| 2 臨床社会学と専門職  | 東京学芸大学 | 野口裕二  |
| 3 対人援助をささえる——民間シェルター, 男女共同参画センター, 性暴力被害救援ワンストップ支援センターの場合 | 千葉大学   | 横山麻衣  |
| 4 産科医療における社会的視角——遺伝カウンセリングを事例として                         | 立教大学   | 菅野摂子  |
| 5 研究者によるケアワークを、誰が、いかに支えるか?——研究者のための臨床社会学に向けて             | 大阪市立大学 | 木下衆   |

テーマセッション 2 障害の社会学(1)

教室 法文1号館 113 (バリアフリー)  
司会者 榊原賢二郎 (東京大学)

- |   |         |      |
|---|---------|------|
| 1 生活指導と支援ネットワークの自己産出——「お礼」と「謝罪」をめぐる社会化実践から          | 日本学術振興会 | 佐藤貴宣 |
| 2 地域で暮らす知的障害のある人の病院体験——医療機関側の負担感の視点から               | 神奈川工科大学 | 於保真理 |
| 3 障害者政策における当事者参画進展の条件——日本・韓国・ベトナムを事例として             | 金沢大学    | 高橋涼子 |
| 4 2つの形で排除される発達障害「グレーゾーン」の障害社会的再考——わかる、わけない/できない、できる | 立教大学大学院 | 田野綾人 |

テーマセッション3 ロードサイドの文化社会学——「国道16号線の郊外」をめくって

教室 法文1号館 212  
司会者 佐幸信介 (日本大学)

- |   |  |                         |                      |
|---|--|-------------------------|----------------------|
| 1 | テレビが映した国道16号線——NHK『72時間』とTVK『キンシオ』を事例として                       | 法政大学大学院                 | 丸山友美                 |
| 2 | 「パルコのなるもの」と「ロードサイド的なるもの」の共起と別離——堤清二の言明からみた戦後日本小売業界発達過程の知識社会的分析 | 東京大学大学院                 | 林凌                   |
| 3 | 「軍都」から「商業集積地」へ——国道16号線と相模原                                     | ○東京都市大学<br>日本大学<br>法政大学 | 塚田修一<br>後藤美緒<br>松下優一 |
| 4 | バイパス化と街の言説・表象——千葉県木更津市を事例に                                     | 法政大学                    | 西田善行                 |

テーマセッション4 <文化遺産>と<歴史的環境>の交差と展開を目指して(1)

教室 法文1号館 214  
司会者 森久聡 (京都女子大学)

- |   |  |          |      |
|---|--|----------|------|
| 1 | 「文化遺産の社会学」の「遺産」——「歴史的環境の社会学」とのすれ違いから考える          | 甲南女子大学   | 木村至聖 |
| 2 | 歴史的景観の観光化と交錯する物語——金沢市ひがし茶屋街における商業形態の多様化から        | 名古屋大学大学院 | 吉村真衣 |
| 3 | 文化遺産における生活・アート・観光——マレーシア・ジョージタウンを事例として           | 立教大学大学院  | 鍋倉咲希 |
| 4 | <文化遺産>でもなく、<歴史的環境>でもなく——「選ばれない」無形文化から考える「保存する時代」 | 甲南女子大学   | 有本尚央 |

テーマセッション5 社会学理論と<経験的なもの>の再構成

教室 ガラス棟 201  
司会者 磯直樹 (慶應義塾大学)

- |   |   |         |       |
|---|---|---------|-------|
| 1 | 戦後日本語辞書からみた日本社会における社会学の定着について——広辞苑初版から第六版までの変化を手がかりに            | 元武蔵大学   | 藤田哲司  |
| 2 | 批判理論と戦争協力   | 東京大学大学院 | 馬渡玲欧  |
| 3 | 「経験的なもの」の意図せざる結果と理論——E. フロムにおける権威主義の問題化の過程を通じて                  | 東京大学    | 魚住知広  |
| 4 | アドルノ社会学の「表現」的性格——「経験」と「経験的なもの」のフィクショナル的再構成                      | 立教大学    | 片上平二郎 |
| 5 | 人々の<生>と「社会」との関係を問う社会学理論の可能性を考える——経験的研究からの理論化の困難を超えるG.H. ミードの方法論 | 武蔵大学    | 徳久美生子 |
| 6 | 表舞台に立てないThe Socialの検討   | 一橋大学大学院 | 國本哲史  |
| 7 | 経験世界に<理想>を見出す批判——実践的批判理論のために                                    | 京都大学    | 鈴木起生  |

テーマセッション6 エスノメソドロジーと会話分析の半世紀(1)

教室 ガラス棟 203  
司会者 秋谷直矩 (山口大学)

- |   |                                    |                                |       |
|---|------------------------------------|--------------------------------|-------|
| 1 | 1960年代のGarfinkelと『エスノメソドロジー研究』     | 神戸大学大学院                        | 櫻村志郎  |
| 2 | ハーヴィ・サククスとエスノメソドロジー・会話分析の半世紀       | 埼玉大学                           | 山崎敬一  |
| 3 | 相互行為分析の誕生                          | 東京工科大学                         | 山崎晶子  |
| 4 | 言語人類学、エスノメソドロジー、会話分析               | 京都大学大学院<br>アジア・アフリカ<br>地域研究研究所 | 高田明   |
| 5 | 知識の実践的マネジメントを記述する——エスノメソドロジー研究の可能性 | 慶應義塾大学                         | 池谷のぞみ |

## テーマセッション7 アートベース・リサーチの可能性と実践(1)

教室 ガラス棟 204  
司会者 岡原正幸 (慶應義塾大学)

- |   |   |                   |             |
|---|---|-------------------|-------------|
| 1 | アートベース・リサーチとフェミニズム——理論と実践                           | 慶應義塾大学<br>大学院     | 中村香住        |
| 2 | 破局へと向かう時代の公共性——ハンナ・アーレントの判断論からのアート・ベース・リサーチについての一考察 | 広島市立大学            | 湯浅正恵        |
| 3 | セルフナラティブとエンパワメント——日記/自己表現/ケア                        | 慶應義塾大学            | 荻野亮一        |
| 4 | 支援者・被支援者間における関係の非対称性の解消と他者理解の検討——俳句ワークショップを事例に      | 帝京大学              | 李永淑         |
| 5 | 精神科通院患者の造形活動における自己表現と他者との関わり                        | 京都造形芸術<br>大学      | 藤澤三佳        |
| 6 | 婦人の手芸活動における場と活動主体の関わり——「神戸・下町おかんアート展」を通して           | ○流通科学大学<br>兵庫県立大学 | 山下香<br>安枝英俊 |

## テーマセッション8 社会理論と運動・紛争研究

教室 ガラス棟 301  
司会者 濱西栄司 (ノートルダム清心女子大学)

- |   |  |               |      |
|---|--|---------------|------|
| 1 | 批判的社会理論の運動研究への応用可能性——アクセル・ホネットとニック・クロスリーからの示唆  | 静岡大学          | 佐藤直樹 |
| 2 | 異質な他者との「連帯」の検討——障害者と健常者との共同労働の試みから             | 国際経済労働<br>研究所 | 伊藤綾香 |
| 3 | 社会運動と主体——フレーミング理論と言説分析の対話を通して                  | 広島市立大学        | 直野章子 |
| 4 | フランスにおける社会運動の変容とポピュリズム——ピエール・ビルンボームの集合行動論をめぐって | 大阪市立大学        | 稲永祐介 |
| 5 | 身体は社会運動の拠点になりうるか——A.メルッチの惑星社会論をてがかりに           | 中央大学          | 鈴木鉄忠 |

## 研究活動委員会企画テーマセッション1 モノと人の社会学(1)

教室 法文1号館 312  
司会者 立石裕二 (関西学院大学)

- |   |  |         |      |
|---|--|---------|------|
| 1 | モノとヒトとを組み直す——B. Latour の「コスモポリティクス」論について                             | 早稲田大学   | 栗原亘  |
| 2 | タルドとラトゥールのつながり——アクターネットワーク理論をめぐって                                    | 北海道教育大学 | 池田祥英 |
| 3 | リスク認識論における实在主義とは何か——構築主義にとどまらない Ulrich Beck と Bruno Latour の論争を題材にして | 成蹊大学    | 川端健嗣 |
| 4 | 環境問題におけるモノと科学技術へのアプローチについて   | 東京都市大学  | 大塚善樹 |
| 5 | 技術開発をめぐるモノと人の交渉——ユーザーの主体性に注目して                                       | 宮崎大学    | 芦田裕介 |

## 研究活動委員会企画テーマセッション 2 移民受け入れを考える (1)

教室 ガラス棟 305

司会者 樋口直人 (徳島大学)

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 1 | インドネシア人看護師のキャリア発展と還流型移住——二国間経済連携協定で渡日後、帰国した者に対する調査から  | ○ Nagasaki University of Indonesia<br>Jenderal Ahmad Yani School of Health Sciences | 平野裕子<br>Tribudi Wahyuni Rahardjo Susiana Nugraha |
| 2 | 人材確保と外国人研修・技能実習制度——外国人研修生受け入れ先進地域・産業の経験から考える  | 法政大学大学院   | 山口罌  |
| 3 | Chinese and Vietnamese Interns/Trainees in Japan——A Comparative Study of Migration Experiences and Outcomes | Hong Kong Polytechnic University  | Siu Kaxton                                       |
| 4 | 日本の高度外国人材受け入れ政策の限界と可能性——日本型雇用システムと企業の役割期待の視点から  | 法政大学  | 上林千恵子  |
| 5 | 日本人の外国人受け入れに対する意識とその変化——ISSP 2003, 2013 の分析から   | 東北大学大学院   | 永吉希久子  |

## 研究活動委員会企画テーマセッション 3 『概念分析の社会学』の展開 (1)

教室 ガラス棟 404

司会者 小宮友根 (東北学院大学)

- |   |   |                 |       |
|---|---|-----------------|-------|
| 1 | 助言行為における非難の回避——「概念分析の社会学」としての「会話分析」     | 千葉大学大学院         | 三部光太郎 |
| 2 | 「親の影響」はいかにして語られるか——高校教員の回顧的な語りの分析       | 東京大学大学院         | 布川由利  |
| 3 | 診断の変化と経験の再記述——うつ病から双極性障害へ               | 一橋大学大学院         | 河村裕樹  |
| 4 | 「私的な」活動の公的な編成——プラクティス (練習) のなかのプラクティス   | 慶應義塾大学大学院       | 吉川侑輝  |
| 5 | 「どのように」を問うことで何をするのか——社会学的記述としての概念分析の社会学 | 東京大学大学院<br>情報学環 | 河村賢   |

第一日 (11月4日)  
一般研究報告(2) (15時10分～18時10分)

社会学教育委員会企画テーマセッション  
『参照基準』ってなんだ!——『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の  
参照基準 社会学分野』の活用をめぐる

教室 法文2号館 1番大教室  
司会者 松本康 (立教大学)

- 1 『参照基準 社会学分野』の策定過程と概要 北海道教育大学 笹谷春美
- 2 『参照基準 社会学分野』をめぐる論点整理 関西大学 高瀬武典  
討論者 眞鍋知子 (金沢大学)、角一典 (北海道教育大学)、江原由美子 (横浜国立大学)

学史・学説(2)

教室 ガラス棟 303  
司会者 早川洋行 (名古屋学院大学)

- 1 「社会的なもの」における差別と画一主義への規定性について——アーレントの社会集団論的記述を解釈する 川崎市立看護短期大学 河合恭平
- 2 「活動の領域としての公共空間」の再検討——アーレントの思想における社会学的可能性をめぐる 立教大学 権安理
- 3 新実在論の視点による実証主義論争の再検討について 立命館アジア太平洋大学 清家久美
- 4 嘘・秘密論の問題構図 慶應義塾大学大学院 小田中悠
- 5 G. H. Meadの自我論と神経社会学 東京通信大学 設置準備室 榊原克哉
- 6 カンギレムの「規範=平均」説の再検討——統計知の歴史社会学的意義を巡って 生間元基
- 7 パーソنز社会学とトッド人類学の接続についての試論その2——構造主義人類学を基準として 神戸大学大学院 小川晃生

理論(2)

教室 ガラス棟 304  
司会者 赤堀三郎 (東京女子大学)

- 1 意味の時間的次元から捉える過去—現在—未来——組織の事例研究の理論的反省から 東京大学大学院 樋口あゆみ
- 2 マスメディア・システムにおける「基底的自己言及」の位置 大東文化大学 馬場靖雄
- 3 後期ルーマンの組織論——『組織と意志決定』を中心に 一橋大学大学院 須田佑介
- 4 社会システムの時間性と同時性——ニクラス・ルーマンの社会システム理論における時間の問題について 日本学術振興会 梅村麦生
- 5 ルーマン・システム理論における Gesellschaft 概念の有用性の検討 大阪医科大学 高橋顕也
- 6 ルーマン社会学における「理念」の問題——機能分化との一致とずれ 神戸大学大学院 畠中茉莉子

研究法・調査法(2)

教室 法文1号館 215  
司会者 小林多寿子(一橋大学)

- |  |         |      |
|--|---------|------|
| 1 ライフストーリーの図式化の試み(1)——UMLによる革新                         | 関東学院大学  | 河野昌広 |
| 2 ライフストーリーの図式化の試み(2)——信仰の継続と離脱の過程                      | 龍谷大学    | 猪瀬優理 |
| 3 ライフストーリーの図式化の試み(3)——体験談のおもしろさ                        | 大阪大学    | 川端亮  |
| 4 ライフストーリーの図式化の試み(4)——『口述の生活史』における人間類型の分離比較と主観的合理性の定式化 | 関東学院大学  | 渡辺光一 |
| 5 自然な発話を地理空間情報と紐付けて記録する新たな野外調査手法の開発                    | 科学警察研究所 | 原田豊  |
| 6 プロセス志向の「厚い比較」  | 日本女子大学  | 尾中文哉 |

地域社会・地域問題(2)

教室 法文1号館 316  
司会者 伊藤泰郎(広島国際学院大学)

- |   |              |               |
|---|--------------|---------------|
| 1 地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略(1)——島根県出雲市、京都府京丹後市の事例       | 大谷大学         | 徳田剛           |
| 2 地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略(2)——ベトナム人の受け入れを進める岡山県美作市の事例 | ノートルダム清心女子大学 | 二階堂裕子         |
| 3 メルボルンに住む高齢女性と別居子との関係                                | 岡山大学         | 野邊政雄          |
| 4 東南アジアにおける沖縄の「トランスナショナル・サラリーマン」——タイの事例をめぐって          | 創価大学         | ジョハンナ<br>ズルエタ |
| 5 中国上海の寿司店における職人的技能の伝承：徒弟制の「ローカル化」に着目して               | 名古屋芸術大学      | 王昊凡           |
| 6 グローバリゼーションと地域産業の変容——陶磁器の生産・流通をめぐ<br>る関係性の比較分析       | 早稲田大学        | 太田有子          |

産業・労働・組織(2)

教室 法文1号館 219  
司会者 高橋康二(労働政策研究・研修機構)

- |  |            |       |
|--|------------|-------|
| 1 なぜ高卒女性で初職非正規リスクは高まったのか——SSM1985-2015を用いた時点間比較分析            | 桃山学院大学     | 阪口祐介  |
| 2 サービス産業化と有期雇用——ジェンダー差に注目して                                  | 関西学院大学     | 長松奈美江 |
| 3 初期キャリアにおける学歴収益率の時点変化——SSM調査1985-2015年を用いて                  | 静岡大学       | 吉田崇   |
| 4 職業性ストレスの規定要因に関する国際比較研究——ISSP職業意識についての国際比較調査から              | NHK放送文化研究所 | 村田ひろ子 |
| 5 長期雇用の趨勢分析——SSM調査1985～2015年データを用いて                          | 名古屋大学      | 福井康貴  |
| 6 非正規労働「踏み石」効果の再検討——2015年SSM調査データを用いた不安定就労から正規労働への移行に関する実証分析 | 下関市立大学     | 森山智彦  |
| 7 2000年代における野宿者の析出過程   | 東洋大学       | 渡辺芳   |

階級・階層・移動(2)2015年SSM調査分析結果

教室 法文1号館 112  
司会者 近藤博之(大阪大学)

- |   |               |            |
|---|---------------|------------|
| 1 人口高齢化を考慮した社会階層論再考——2015年SSM調査分析結果(1)            | 東京大学          | 白波瀬佐和子     |
| 2 正規雇用—非正規雇用間の世代内移動パターンの時間的変化——2015年SSM調査分析結果(2)  | 東北大学          | 佐藤嘉倫       |
| 3 現役世代の階層意識の実態——2015年SSM調査分析結果(3)                 | 大阪大学          | 吉川徹        |
| 4 近代日本の職業経歴——2015年SSM調査分析結果(4)                    | 関西学院大学        | 渡邊勉        |
| 5 職歴データにもとづく稼得歴の推定と高齢者の社会経済的地位——2015年SSM調査分析結果(5) | 東京大学          | 有田伸        |
| 6 現代日本の不平等の進展と地位達成過程——2015年SSM調査分析結果(6)           | 東京大学          | 三輪哲        |
| 7 世代間の階層移動の趨勢分析——2015年SSM調査分析結果(7)                | ○東京大学<br>東京大学 | 石田浩<br>三輪哲 |

災害(2)

教室 法文1号館 319  
司会者 中澤秀雄(中央大学)

- |   |                          |                      |
|---|--------------------------|----------------------|
| 1 震災復興時における漁村の論理——岩手県大槌町赤浜地区における震災遺構を巡って                              | 東北大学大学院                  | 坂口奈央                 |
| 2 地域の記憶の継承と地域アイデンティティのゆらぎ——災害過程における地域生活のビジョンの破壊と再構築の試みをめぐって           | ○早稲田大学<br>早稲田大学<br>早稲田大学 | 浦野正樹<br>野坂真<br>川副早央里 |
| 3 岩手県大槌町における地域の記憶の継承と地域アイデンティティの紡ぎ直し——災害過程における地域生活のビジョンの個別化と集合化のはざままで | ○早稲田大学<br>早稲田大学<br>早稲田大学 | 野坂真<br>浦野正樹<br>川副早央里 |
| 4 苦難といかに向き合うか——インドネシア・アチェの記念行事にみられる神義論                                | 日本学術振興会                  | 福田雄                  |
| 5 災害復興とフィールドワーク——ネパール・パタンの事例から  | 桃山学院大学                   | 大野哲也                 |
| 6 災害への準備行動に対する「危険」の効果——危険の存在か、危険の認識か、危険の正確な知識か                        | ○近畿大学<br>信州大学<br>信州大学    | 辻竜平<br>上沼伽帆<br>菊池聡   |

知識・科学

教室 法文1号館 311  
司会者 黒田浩一郎(龍谷大学)

- |  |                       |                         |
|--|-----------------------|-------------------------|
| 1 精神医学的な自己認識の形成過程に関する考察——「うつ」患者のメディア接触経験の分析から                                  | 埼玉大学                  | 佐藤雅浩                    |
| 2 HPVワクチン接種推進派の論理  | 産業医科大学                | 種田博之                    |
| 3 心霊科学の成立条件——19世紀後半における科学と非科学の境界   | 東京大学大学院               | 松村一志                    |
| 4 ジャーナル駆動型リサーチの誕生——選択的資源配分を前提とする研究評価事業の意図せざる結果                                 | 同志社大学                 | 佐藤郁哉                    |
| 5 科研費審査システム改革の社会学——<審査委員割り当て方式の変更>問題と<範疇関係の平面的理解>問題                            | 神戸市看護大学               | 檉田美雄                    |
| 6 Technology and Attitudes toward Difference——Access versus Usage              | KOC University        | ERGIN Murat             |
| 7 Coping with Techno-Work-Life Stress:——A Case of the Indian Software Industry | Vidyasagar University | Asmita<br>Bhattacharyya |

文化・社会意識 (3)

教室 法文1号館 115  
司会者 栗田宣義 (甲南大学)

- |   |  |         |       |
|---|--|---------|-------|
| 1 | 1990年代の韓国のゲーム雑誌における「おたく文化」の形成                      | 東京大学大学院 | 金泰龍   |
| 2 | アイドル「解散」で可視化される論理と感情——ネットニュースの計量テキスト分析から           | 中部大学    | 田川隆博  |
| 3 | 共同製作空間の作業時間と会話時間のうつりかわり——都立三宅高等学校ファッションショー準備を事例として | 東京大学大学院 | 大西未希  |
| 4 | 若年無業者支援者の自己の様相——地域若者サポートステーションの支援者を事例として           | 東洋大学    | 小川祐喜子 |
| 5 | 若者の友人関係とジェンダー (1)——向かい合い型／横並び型の関係性類型に着目した計量分析      | 大阪大学    | 辻大介   |
| 6 | 若者の友人関係とジェンダー (2)——女性のライフステージ                      | 弘前大学    | 羽瀨一代  |
| 7 | 若者の友人関係とジェンダー (3)——「ひとりぼっち」化する男子?                  | 中央大学    | 辻泉    |

文化・社会意識 (4)

教室 法文1号館 314  
司会者 穴戸邦章 (大阪商業大学)

- |   |  |         |                                 |
|---|--|---------|---------------------------------|
| 1 | 社会的多様性が主観的幸福に結びつく条件——コミュニティか社会的関心か                       | 専修大学    | 矢崎慶太郎                           |
| 2 | 幸福と不幸は同じコインの表と裏か——SSP2015 調査データによる分析                     | ○北海道大学  | HOMMERICH<br>Carola<br>成蹊大学 小林盾 |
| 3 | 不公平感の構造変容——2005年と2015年の時点間比較分析                           | 立命館大学   | 金澤悠介                            |
| 4 | 権威主義的態度における「静かなる反革命」の検証——1995, 2005, 2015年 SSM 調査データを用いて | 大阪大学大学院 | 松本雄大                            |
| 5 | 文化と社会階層の多重対応分析——2015年 SSM データを用いて                        | ○慶應義塾大学 | 磯直樹<br>慶應義塾大学 竹ノ下弘久<br>金沢大学 轟亮  |
| 6 | 若年世代の価値意識の日米比較——アメリカ3州ウェブ調査のデータを用いて                      |         |                                 |

教育 (2)

教室 法文1号館 310  
司会者 濱嶋幸司 (同志社大学)

- |   |   |                     |       |
|---|---|---------------------|-------|
| 1 | 日本の英語教育政策の現状を俯瞰する——グローバル化社会と言語教育の視点から                     | 早稲田大学 /<br>愛知県立高等学校 | 岩村博史  |
| 2 | フランス大統領選挙から見る高等教育政策                                       | 神戸大学                | 白鳥義彦  |
| 3 | 教育機会確保法をめぐる論点   | 富山大学                | 高山龍太郎 |
| 4 | 社会学教育におけるアクティブ・ラーニング導入をめぐる一考察——近年の教科書動向を参照として             | 東京大学                | 鈴木洋仁  |
| 5 | 大学教員職におけるティーチングの意義と研究の価値——パスコリドの社会学教員の職務の分業化モデル           | 流通科学大学              | 宇田川拓雄 |
| 6 | 「心理」学部・学科の急増とその制度的背景——高等教育行政との関連において                      | 早稲田大学大学院            | 酒井宏明  |
| 7 | メリトクラシーの社会的構成にみる能力評価と習得方法の論理——大衆雑誌の「コミュニケーション能力」言説の分析を通して | 筑波大学大学院             | 長創一郎  |

社会病理・逸脱

教室 法文1号館 317  
司会者 水津嘉克 (東京学芸大学)

- |  |               |       |
|--|---------------|-------|
| 1 労働時間とメンタルヘルスの関連——2015年SSM調査を用いた検討            | 学習院大学         | 小森田龍生 |
| 2 銀行員の働きすぎの研究                                  | 中央大学          | 前島賢土  |
| 3 理解不能な動機の社会的構成——豊川主婦殺害事件(2000年)を事例として         | 和光大学          | 赤羽由起夫 |
| 4 <悪>から<害>へ——ハーム・リダクションと逸脱処遇の現代の変容             | 関西学院大学        | 佐藤哲彦  |
| 5 ソーシャルのワーカーの援助と監視に関する現代の特徴——台湾における少年輔導実践に注目して | 筑波大学大学院       | 李岱真   |
| 6 「幼女」の語られ方                                    | 筑波大学大学院       | 周筱    |
| 7 主体から眺める「ひきこもり」経験——欲望における他者の模倣とモデルの不在         | 関西学院大学<br>大学院 | 伊藤康貴  |

福祉・保健・医療(2)

教室 法文1号館 217  
司会者 本郷正武 (和歌山県立医科大学)

- |  |               |      |
|--|---------------|------|
| 1 双極性Ⅱ型障害当事者の生きづらさに関する一考察——「生きられた経験としての病」の語り             | 関西大学大学院       | 松元圭  |
| 2 自閉症概念の変容——自伝や職場日誌を媒介にして                                | 松山大学大学院       | 渡邊文春 |
| 3 ストレス耐性を価値化しない——うつ病からの退職、そして再就労の語りから                    | 静岡大学          | 荻野達史 |
| 4 「病みの軌跡」に関する考察——診断の役割に注目して                              | 大阪大学大学院       | 上野彩  |
| 5 「薬害」を学ぶための副教材『薬害を学ぼう』の制作過程の検討——「薬害」の概念とイメージをどのように伝えるのか | 就実大学          | 中塚朋子 |
| 6 難病政策における疾患名モデル拡張期の歴史分析——研究主導型公費医療とケア政策の統合推移の検証から       | 明治学院大学<br>大学院 | 渡部沙織 |

性・ジェンダー(3)

教室 ガラス棟 102  
司会者 田中俊之 (大正大学)

- |  |  |                                     |
|--|--|-------------------------------------|
| 1 イクメン政策の効果と限界についての一考察——父親の男らしさという視点から                   | 大阪府立大学                                     | 巽真理子                                |
| 2 スウェーデンにおける男性問題への取り組み——男性ための危機センター、レイプ被害者緊急外来を中心に       | ○四国学院大学<br>佛教大学<br>関西大学<br>京都産業大学<br>立命館大学 | 大山治彦<br>大東貢生<br>多賀太<br>伊藤公雄<br>能勢桂介 |
| 3 MARCH/地方国立大出身の独身中年男性たち(1)——バブル前後世代のその後                 |  |                                     |
| 4 MARCH/地方国立大出身の独身中年男性たち(2)——バブル前後世代のその後                 | 明治学院大学                                     | 小倉敏彦                                |
| 5 「男子、ちゃんと歌って!」の歴史社会学——「変声期」男子の教育をめぐって                   | 早稲田大学                                      | 森山至貴                                |
| 6 「戦争体験」のジェンダー化された序列——第一次世界大戦後アメリカ合衆国の事例から               | 日本学術振興会                                    | 望戸愛果                                |
| 7 仮性包茎手術を正当化する言説の1970-90年代における変容——「医療化された男らしさ」概念を手がかりとして | 東京経済大学                                     | 澁谷知美                                |

民族・エスニシティ (3)

教室 法文1号館 114  
司会者 山本薫子 (首都大学東京)

- |   |  |         |       |
|---|--|---------|-------|
| 1 | トランプ政権下における非正規移民の現状 (1) ——強化される検挙/強制送還と移民の家族                         | 一橋大学    | 小井土彰宏 |
| 2 | トランプ政権下における非正規移民の現状 (2) ——暫定的権利 (DACA) を付与された高学歴移民若者層の意識と運動          | 一橋大学大学院 | 飯尾真貴子 |
| 3 | 外国人の増減にともない国際結婚も増減するのか——日本全国・東京都区部・名古屋市・大阪市の 1996 ~ 2015 年統計データによる検討 | 同志社大学   | 藤岡勲   |
| 4 | 相補的ハイブリッド性——ロシア・ユダヤ人と自己を引き立てる他者                                      | 東京大学    | 鶴見太郎  |
| 5 | インドシナ難民コミュニティとその資源 ——コミュニティ・メンバーの属性との関連で                             | 東京外国語大学 | 長谷部美佳 |
| 6 | エスニシティという概念の批判的検討——経験のない「民族」を考察するために                                 | 筑波大学大学院 | 井上恵子  |

国際・エリアスタディ

教室 法文1号館 211  
司会者 大橋史恵 (武蔵大学)

- |   |   |                |                                   |
|---|---|----------------|-----------------------------------|
| 1 | ベトナム農村部における建設技能実習生送り出しに関する研究——積極的勧誘期におけるアクターと意識形成     | 成蹊大学           | 恵羅さとみ                             |
| 2 | バンコク都のカナカマカーン・チュムチョン——アンケート調査にもとづく実態分析                | ○福島大学<br>宇都宮大学 | 牧田実<br>KAEWMAN-<br>OTHAM<br>MALEE |
| 3 | インドネシア首都圏の拡大と労働者の移動——非正規雇用者に着目して                      | 岩手保健医療大学       | 大井慈郎                              |
| 4 | アフリカ農村における零細鉱業の役割——タンザニア国ゲイタ鉱山地域における零細鉱業の多面的機能性の考察    | 秋田大学           | 藍澤淑雄                              |
| 5 | ドイツにおけるブルカ論争と「連邦共和国」の現在                               | 東海大学           | 飯島祐介                              |
| 6 | 後発移民国における地域からの多文化主義の刷新——スペインにおける「インターカルチャリズム」政策の分権的形成 | 一橋大学大学院        | 上野貴彦                              |
| 7 | 植民地・国民国家・連帯 ——第三共和政期フランスにおける連帯概念と A・サローの植民地政策論        | 東京大学大学院        | 柴田温比古                             |

歴史・社会史 (2)

教室 ガラス棟 402  
司会者 中筋直哉 (法政大学)

- |   |  |               |      |
|---|--|---------------|------|
| 1 | 学校・地域・ジェンダー——公立男女別学高校同窓会員のライフヒストリーから           | 一橋大学大学院       | 徳安慧一 |
| 2 | 戦後日本における石材店の実践と墓制の変容——大規模化する石材店による墓の「商品化」に注目して | 首都大学東京<br>大学院 | 辻井敦大 |
| 3 | 奉祝行事の見物者をめぐる定型表現と実践——大正・昭和初期の都市世界の事例           | 山口大学          | 右田裕規 |
| 4 | 高尾山における観光地の成立——霊山から観光地へ                        | 早稲田大学大学院      | 小貫浩  |
| 5 | 修学旅行とナショナリズム——戦後の奈良・京都への旅行の再開・拡大過程を事例に         | 慶應義塾大学        | 菅沼明正 |
| 6 | 近代旅行者の地図と想像力 ——土産物としての奈良絵図をてがかりに               | 京都大学大学院       | 堂本直貴 |

Session in English (2)

教室 ガラス棟 403  
司会者 伊藤るり (一橋大学)

- |  |   |                                  |
|--|---|----------------------------------|
| 1 Defining nation and crafting dignity in a metropolis as sanctuary—Negotiating emerging nationalism(s) with cosmopolitanism in Hong Kong  | 香港中文大学  | Cheung Yukman                    |
| 2 Illegal remaining for living in the Developing World—The hindering reasons of the slowdown of artisanal and small-scale mining formalization in the developing countries: A case of Mongolia | Independent Research Institute of Mongolia (IRIM) | Tselmegsaikhan Lkhagva           |
| 3 Kashmir Conflict and its Impact on the Culture and Economy of the Bakarwal Nomads and its future in the Region   | College Rajouri Jammu and Kashmir                 | Mohd Tufail                      |
| 4 Reconciling religion and feminism  | Indian Institute of Technology                    | Qazi Sarah Rasheed               |
| 5 African American Patriotism—A Qualitative Study of African Americans in Texas  | International Christian University                | 石生義人                             |
| 6 Spicing up a traditional pottery village—a Brazilian in Arita's Happy Lucky Kiln site  | 首都大学東京  | Granja Pereira De Morais Liliana |
| 7 Bernstein's sociological theory of pedagogic device and its relevance for researching curriculum politics in Hong Kong   | Griffith University, QLD, Australia               | Kwok Henry                       |

テーマセッション 9 障害の社会学 (2)

教室 法文1号館 113 (バリアフリー)  
司会者 榊原賢二郎 (東京大学)

- |  |   |  |
|--|---|--|
| 1 障害女性研究における交差性アプローチ                             | ○立命館大学<br>愛知大学<br>立命館大学<br>名古屋大学<br>金城学院大学<br>国際経済労働研究所 | 渡辺克典<br>土屋葉<br>河口尚子<br>後藤悠里<br>時岡新<br>伊藤綾香 |
| 2 障害のある女性が経験する「生きづらさ」と「交差性」——精神に障害のある女性の生活史に着目して | ○名古屋大学<br>愛知大学<br>立命館大学<br>立命館大学<br>金城学院大学              | 後藤悠里<br>土屋葉<br>渡辺克典<br>河口尚子<br>時岡新<br>高森明  |
| 3 失業者分類における障害者カテゴリーの生成について——19-20世紀転換期イギリスを例にして  |   |  |
| 4 中途障がいをもつ高齢者たちの「生」——A会における指導員を事例として             | 岡山大学大学院   | 杉本隆  |

テーマセッション 10 都市空間の変容を考える——2000年代以降の東京を焦点として

教室 法文1号館 212  
司会者 山本理奈 (東京大学)

- |   |         |      |
|---|---------|------|
| 1 2000年代東京郊外における「住むこと」の模索——埼玉県西部S団地を事例として     | 立教大学    | 高木恒一 |
| 2 集合住宅における二重の老いのゆくえ                           | 弘前大学    | 平井太郎 |
| 3 現代都市における住宅問題——「住宅難」と「居住者難」                  | 東京大学    | 祐成保志 |
| 4 所得貧困基準の下落とその正当性                             | 東京大学大学院 | 東悠介  |
| 5 都市におけるアートの制度と国家の介入——1960年代以降のニューヨークと東京の比較研究 | 大阪市立大学  | 笹島秀晃 |
| 6 オリンピックと都市景観の社会学——マークの不正利用からエンブレムの商業利用へ      | 東海大学    | 加島卓  |
| 7 現代都市におけるスポーツと情報の交錯——皇居ランを事例として              | 成城大学    | 新倉貴仁 |

## テーマセッション 11 <文化遺産> と <歴史的環境> の交差と展開を目指して (2)

教室 法文1号館 214

司会者 森久聡 (京都女子大学)

- 1 地域社会の連続性から見る産業遺産保全の力学——北海道・住友赤平炭 北海道大学大学院 平井健文  
 鉱の立坑保全をめぐる
- 2 被爆遺構の保存とその社会的条件 福島大学 深谷直弘
- 3 歴史的環境としての戦争遺跡——ある家族が住んできた掩体壕を事例に 東京大学大学院 清水亮
- 4 負の文化遺産と<パフォーマンス>——ポーランドにおけるホロコーストの記憶をめぐる 国学院大学 加藤久子

## テーマセッション 12 社会学における理論と実証

教室 ガラス棟 201

司会者 常松淳 (日本大学)

- 1 計量分析の動向と理論 大阪大学大学院 大久保将貴
- 2 異質なものの比較と均質なものの比較——計量社会学における比較の機能 立命館大学 筒井淳也
- 3 社会学におけるモデルの役割について——理論と実証を架橋する 学習院大学 数土直紀
- 4 社会学理論はいかなる種類の経験的データを必要とするか 国立大学法人 東 瀧川裕貴  
 北大学
- 5 社会理論と実験 青山学院大学 大林真也
- 6 質的比較分析は経験的データをいかに扱うべきか——全国47都道府県の出生率データの真理表分析から理論生成を行う試み 岡山大学 大学院 齋藤圭介

## テーマセッション 13 エスノメソドロジーと会話分析の半世紀 (2)

教室 ガラス棟 203

司会者 秋谷直矩 (山口大学)

- 1 エスノメソドロジーカルな社会学的研究とは何か 松山大学 山田富秋
- 2 「エスノメソドロジー研究とは何か」とは何であったか——分析的エスノメソドロジー研究=「概念分析の社会学」という陥穽 国際基督教大学 岡田光弘
- 3 ポスト分析的エスノメソドロジーから見えてくるもの——ガーフィンケルの研究を主たる素材として 青森大学 中村和生
- 4 対話型調停における「助言のジレンマ」と「エンパワーメント」——メディアエーションの相互行為分析 東海大学 北村隆憲

## テーマセッション 14 アートベース・リサーチの可能性と実践 (2)

教室 ガラス棟 204

司会者 岡原正幸 (慶應義塾大学)

- 1 映像制作ワークショップの創造性——「札幌国際芸術祭2017CM映像制作ワークショップ」の考察 東海大学 石垣尚志
- 2 よさこいの「踊り子」の技芸とフォト・エスノグラフィー 大阪市立大学 大学院 ケイン樹里安
- 3 いうこときかないやつらの映像社会学——都市に生き働く若者の労働組合実践 特定非営利活動 岩館豊  
 法人サーベイ
- 4 芸術作品の社会的創造過程と企業社会への示唆——英国王立音楽院による「学術校訂」と「演奏習慣」の相克研究 (含む実演) 株式会社博報堂 森泰規
- 5 Work in progress: Two years of Keio ABR and performative sociology 慶應義塾大学 大学院 プルサコバ  
 アリナ

テーマセッション 15 『ポリティカル・コレクトネス』の社会的文脈再考

教室 ガラス棟 301

司会者 須永将史 (立教大学)

- |   |   |         |      |
|---|---|---------|------|
| 1 | ポリティカル・コレクトネス概念のイデオロギー的利用——PC 論争からトランプへ                         | 関東学院大学  | 明戸隆浩 |
| 2 | カラーブラインドとポリティカル・コレクトネス——グアム・チャモロ人の先住民運動を事例として                   | 日本学術振興会 | 長島怜央 |
| 3 | クリア・ポリティクスとポリティカル・コレクトネス——「生の保障」と「アンチ・ソーシャル」との間で                | 東京大学    | 清水晶子 |
| 4 | 「社会的望ましさ」をめぐるコミュニケーションとしての PC——メディアでの差別語是正、反ヘイトスピーチをめぐる動きをとらえ直す | 日本映画大学  | 韓東賢  |
| 5 | アイデンティティ政治と「政治的正しさ」——競合のための差異                                   | 一橋大学大学院 | ユラジュ |
| 6 | 00 年代日本の言論における「新自由主義」レッテル——テキストマイニングによる分析                       | 首都大学東京  | 左古輝人 |

研究活動委員会企画テーマセッション 4 ポスト世俗化時代における宗教と社会

教室 法文 1 号館 216

司会者 安達智史 (近畿大学)

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| 1 | 宗教の役割に関する意識の世代間比較 ——ISSP2008 宗教意識調査を事例として   | 北海道大学大学院   | 清水香基  |
| 2 | Rethinking the Political Participation of Hong Kong Christians  | Nagasaki University  | 伍 嘉誠  |
| 3 | カトリシズムにみる公共宗教性と救済宗教性——現代アルゼンチンの事例から   | 早稲田大学  | 渡部奈々  |
| 4 | The Value-based Talent Recruitment Model in Islamic Finance——The Counting and Positioning Issue in Malaysia | ○ Open University Malaysia<br>Universiti Kebangsaan Malaysia<br>Universiti Kebangsaan Malaysia | Norsiah Aminudin<br>Wan Yusoff<br>Wan Mokhtar |
| 5 | ポスト世俗化時代における在日コリアンの宗教   | 大阪市立大学   | 宮下良子  |

研究活動委員会企画テーマセッション 5 モノと人の社会学 (2)

教室 法文 1 号館 312

司会者 立石裕二 (関西学院大学)

- |   |   |   |                          |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | 〈都市的なるもの〉のマテリアルな位相——Assemblage アプローチの経験的 / 方法論的 / 存在論的な受容をめぐる                                       | ○日本学術振興会<br>愛知大学<br>NPO サーベイ・文京学院大学ほか   | 森啓輔<br>植田剛史<br>岩館豊       |
| 2 | From conflict to sharing——Exploring the shared relationship of an entity community in actor-network | ○National Taipei University of Education<br>National Taipei University of Education | ChenYu-An<br>Chan-LI Lin |
| 3 | アート作品における価値の共創に関する一考察   |   | 田村葉子                     |
| 4 | オフィスデザインにおける人間・非人間の配置   | 大妻女子大学  | 牧野智和                     |
| 5 | 科学実践における住宅——昭和初期の健康住宅の事例から  | 神戸松蔭女子学院大学  | 西川純司                     |

研究活動委員会企画テーマセッション 6 農業・農村地域の社会解体的危機に抗する  
〈住民の力〉

教室 法文1号館 315  
司会者 西村雄郎 (広島大学)

- |   |                           |                      |
|---|---------------------------|----------------------|
| 1 林業・木材産業は山村を支えられるか——大分県日田市を事例として                         | 大阪人間科学大学                  | 杉本久未子                |
| 2 過疎農山村における他出家族の役割の可能性と限界——長野県下伊那郡天龍村における他出家族の調査から (1)    | ○滋賀県立大学<br>長野大学           | 丸山真央<br>相川陽一         |
| 3 過疎農山村における「農」を通じた他出家族とのつながり——長野県下伊那郡天龍村における他出家族の調査から (2) | 都留文科大学<br>○長野大学<br>滋賀県立大学 | 福島万紀<br>相川陽一<br>丸山真央 |
| 4 地域メディアがもつ地域再生機能——北海道十勝エリアを事例に                           | 都留文科大学<br>札幌学院大学          | 福島万紀<br>小内純子         |
| 5 ローカルメディアと地域生活文化圏——大分県日田市と大山町のケーブルテレビを通して                | 福岡女学院大学                   | 寄藤晶子                 |
| 6 新聞バッグづくりを介した住民の協同——宮城県「海の手山の手ネットワーク」の事例                 | 高知大学                      | 佐藤洋子                 |

研究活動委員会企画テーマセッション 7 原子力災害と社会学——「避難者の権利」と地域再生の可能性をめぐって

教室 ガラス棟 101  
司会者 加藤眞義 (福島大学)

- |  |               |             |
|--|---------------|-------------|
| 1 長期避難における「避難者」の社会的位置づけ——茨城県を事例として                     | 茨城大学          | 原口弥生        |
| 2 原発避難者支援のローカルガバナンス——埼玉県を事例として                         | ○立教大学<br>法政大学 | 原田峻<br>西城戸誠 |
| 3 放射能汚染問題をめぐる沈黙と思考停止——千葉県・茨城県の汚染状況重点調査地域における住民意識調査をもとに | 山口大学          | 高橋征仁        |
| 4 原発避難に関する住民意向調査にみる帰還意識の推移と帰還状況                        | 大阪商業大学        | 岩井紀子        |
| 5 避難指示解除後の地域再建における長期的課題——福島県あぶくま地域を中心に                 | 明治学院大学        | 藤川賢         |
| 6 何が失われたのか?——「帰還困難区域」飯舘村長泥住民の聞き取りから                    |               | 福岡安則        |

研究活動委員会企画テーマセッション 8 移民受け入れを考える (2)

教室 ガラス棟 305  
司会者 樋口直人 (徳島大学)

- |   |          |               |
|---|----------|---------------|
| 1 現代日本における移民の編入様式——家族・ジェンダー・市場                        | 大阪大学     | 高谷幸           |
| 2 流動的な外国人「集住」地域の考察に向けて——エスニックな観光地としての側面を持つ「新大久保」の事例から | 東京大学大学院  | 申惠媛           |
| 3 ニューカマーに見る日本社会への同化と他者化に関する研究——韓国系ニューカマー 1.5世と2世の事例から | 立命館大学大学院 | 今里基           |
| 4 移動する生からみる日本の教育・就労 (1)——ブラジルに帰国した人びとの主観的な意味づけから      | 一橋大学大学院  | 山野上麻衣         |
| 5 移動する生からみる日本の教育・就労 (2)——ブラジルにかえる人びとの「環境」についてのかたりより   | 福岡教育大学   | ハヤシザキ<br>カズヒコ |

研究活動委員会企画テーマセッション9 『概念分析の社会学』の展開(2)

教室 ガラス棟 404

司会者 小宮友根 (東北学院大学)

- |   |   |         |       |
|---|---|---------|-------|
| 1 | フィクションの分析可能性——テキスト資料と概念分析の社会学                 | 東京大学大学院 | 岡沢亮   |
| 2 | マーケティング言説における「若者」・再考                          | 昭和女子大学  | 小川豊武  |
| 3 | 「いじめ」の対策転換と統治性の変容——文部科学省によるいじめ定義の改訂の考察        | 京都大学大学院 | 姚逸葦   |
| 4 | 「グループ」の「成員性」をいかに記述するか——フィールドノーツの分析を事例に        | 大阪経済大学  | 團康晃   |
| 5 | 共有されたワークスペースの構成——アニメーション労働現場におけるフィールドノートの分析から | 一橋大学大学院 | 松永伸太郎 |

第二日 (11月5日)  
 一般研究報告 (3) (9時30分～12時30分)

人口

教室 法文1号館 114  
 司会者 原俊彦 (札幌市立大学)

- |   |  |                       |                        |
|---|--|-----------------------|------------------------|
| 1 | コウホート初婚年齢別出産確率の研究——1954 - 2003年コウホートの初婚年齢別出産確率とその法則性 | 帝京大学                  | 池周一郎                   |
| 2 | 夫婦の学歴結合からみる出生力格差の50年——SSM2015年調査を用いた対角基準モデルによる生存分析   | 東京大学大学院               | 打越文弥                   |
| 3 | アジアで進行する少子化の特徴と背景要因についての理論的検討                        | 中京大学                  | 松田茂樹                   |
| 4 | 人口変動を考慮した社会階層研究——学歴の世代間格差に着目して                       | ○東京大学<br>東京大学<br>東北大学 | 毛塚和宏<br>白波瀬佐和子<br>瀧川裕貴 |
| 5 | 中国における第二世代農民工の就業現状及び権利保障に関する研究——北京民営企業を事例として         | 九州大学                  | 曹家寧                    |

家族

教室 法文1号館 214  
 司会者 神原文子 (神戸学院大学)

- |   |   |                 |       |
|---|---|-----------------|-------|
| 1 | 女性の幼少期からの暴力被害経験と家族                      | お茶の水女子<br>大学大学院 | 杉野衣代  |
| 2 | 未就学児をもつ母親の賃金ペナルティの推定                    | 山形大学            | 竹内麻貴  |
| 3 | 親の離婚と子どもの家族形成——親の離婚経験者の結婚と離婚に着目して       | 慶應義塾大学<br>大学院   | 吉武理大  |
| 4 | 多様化する家族と生活保障——ひとり親の貧困世帯を中心に (1) ドイツの事例  | 城西国際大学          | 魚住明代  |
| 5 | 多様化する家族と生活保障——ひとり親の貧困世帯を中心に (2) フランスの事例 | 静岡大学            | 船橋恵子  |
| 6 | 多様化する家族と生活保障——ひとり親の貧困世帯を中心に (3) 韓国の事例   | 横浜国立大学          | 相馬直子  |
| 7 | 多様化する家族と生活保障——ひとり親の貧困世帯を中心に (4) オランダの事例 | 東海大学            | 廣瀬真理子 |

都市

教室 法文1号館 212  
 司会者 熊田俊郎 (駿河台大学)

- |   |  |                 |              |
|---|--|-----------------|--------------|
| 1 | 専門的都市計画知識・技術の制度的基盤——政府の介入と業界団体による職業・職能統制の検討から          | 愛知大学            | 植田剛史         |
| 2 | 米国都市貧困研究における方法論の展開——ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカのアンダークラス』以降に着目して | 東京大学大学院         | 大和冬樹         |
| 3 | 交通インパクトと都市・地域社会の構造変動 (1) ——交通インパクトの社会地区分析と埼京線沿線地域の事例分析 | ○日本大学<br>明治学院大学 | 後藤範章<br>浅川達人 |
| 4 | 交通インパクトと都市・地域社会の構造変動 (2) ——つくばエクスプレス沿線地域の事例分析          | 玉川大学            | 小山雄一郎        |
| 5 | 交通インパクトと都市・地域社会の構造変動 (3) ——埼玉高速鉄道沿線地域の事例分析             | 日本大学            | 松橋達矢         |
| 6 | 交通インパクトと都市・地域社会の構造変動 (4) ——長野・北陸新幹線沿線地域の事例分析           | 平成国際大学          | 松林秀樹         |
| 7 | 交通インパクトと都市・地域社会の構造変動 (5) ——九州新幹線沿線地域の事例分析              | 福岡県立大学          | 田代英美         |

### 地域社会・地域問題 (3) 沖縄の自治会と自衛隊基地

教室 法文1号館 316  
司会者 鈴木規之 (琉球大学)

- 1 沖縄の自治会と自衛隊基地 (1) ——本島南部及び離島への注目 吉備国際大学 平井順
- 2 沖縄の自治会と自衛隊基地 (2) ——陸自配備計画と宮古島の地域社会 相愛大学 藤谷忠昭
- 3 沖縄の自治会と自衛隊基地 (3) ——瀬長島の跡地利用と観光地化 関西大学 南裕一郎
- 4 沖縄の自治会と自衛隊基地 (4) ——那覇市の校区まちづくり協議会 関西大学 栄沢直子
- 5 沖縄の自治会と自衛隊基地 (5) ——南城市字つきしろにおける自治 佛教大学 牧野芳子
- 6 沖縄の自治会と自衛隊基地 (6) ——沖縄地域調査における概念問題に焦点を当てて 椋山女学園大学 田村雅夫

### 地域社会・地域問題 (4) 祭礼の危機と担いのしくみ

教室 法文1号館 319  
司会者 福田恵 (広島大学)

- 1 祭礼の危機と担いのしくみ (1) ——継承システムの存続可能性とシステム変更 神奈川大学 牧野修也
- 2 祭礼の危機と担いのしくみ (2) ——担い手不足へのコミュニティの対応 日本学術振興会 金子祥之
- 3 祭礼の危機と担いのしくみ (3) ——架橋後のシマの空間闘争としての祭礼 上智大学 植田今日子
- 4 祭礼の危機と担いのしくみ (4) ——拡大するアクター、拡散する「御柱」 青山学院大学 矢野晋吾
- 5 祭礼の危機と担いのしくみ (5) ——都市祭礼における山車の管理システムの再編をめぐって 滋賀県立大学 武田俊輔
- 6 祭礼の危機と担いのしくみ (6) ——京都祇園祭 増加するマンション新住民とあふれかえる観光客 同志社大学 中村圭

### 地域社会・地域問題 (5)

教室 法文1号館 315  
司会者 五十嵐泰正 (筑波大学)

- 1 日本とインドネシアの互助慣行の比較——東ジャワとバリ島を中心に 流通経済大学 恩田守雄
- 2 パイナップルの「笑い」と「批判」——移民開拓集落における方法としての「へんなパイナップル」 立教大学大学院 廣本由香
- 3 八重山郷友会における郷土芸能と構築される故郷について——1980年代「東京 八重山郷友会」の活動を中心として 拓殖大学 桃塚薫
- 4 琉球政府における女性の政治参加と行政活動 日本女子大学 高橋順子
- 5 治安意識と地域参加、一般的信頼の関連性——日本における社会関係資本調査データの分析から 早稲田大学 小藪明生
- 6 環境設備等はいかなる人々に導入されているか 松山大学 小松洋
- 7 「再埋め込み」としての地域づくり ——「顔の見える専門家」としての建築家の実践 関西学院大学大学院 松村淳

産業・労働・組織 (3)

教室 法文1号館 219  
司会者 山田信行 (駒澤大学)

- |  |                       |             |
|--|-----------------------|-------------|
| 1 NPOにおける組織拡大の要因——兵庫県 NPO 調査のデータ分析 (1)                       | 同志社大学大学院              | 西岡暁廣        |
| 2 NPOにおける行政との協働とアドボカシー——兵庫県 NPO 調査のデータ分析 (2)                 | 同志社大学大学院              | 猿渡壮         |
| 3 NPOにおける組織体制・風土と繁忙度の関連——兵庫県 NPO 調査のデータ分析 (3)                | 摂南大学                  | 山本圭三        |
| 4 労働組合が労働市場の二重性に及ぼす影響  | 東京大学大学院<br>学際情報学府     | 鈴木恭子        |
| 5 NPO スタッフの活動とソーシャル・キャピタルとの関連——NPO 法人スチューデント・サポート・フェイスを事例として | 佐賀大学大学院               | 張 舒         |
| 6 再帰的近代と労働倫理の変容——労働組合組合員意識調査の二次分析から                          | ○群馬県立女子<br>大学<br>金沢大学 | 歸山亜紀<br>田邊浩 |

階級・階層・移動 (3)

教室 法文1号館 112  
司会者 渡邊勉 (関西学院大学)

- |  |              |       |
|--|--------------|-------|
| 1 職業達成の構造の男女比較——1985-2015 年 SSM 調査の結果を用いた計量分析            | 東京大学         | 白川俊之  |
| 2 親による子の教育期待が教育格差の形成にもたらす効果——青少年の子を持つ保護者を対象とした日韓比較調査をもとに | 東京学芸大学       | 小澤昌之  |
| 3 ネットワーク分析手法による職業カテゴリ抽出の試み——2005 年・2015 年 SSM 調査データを用いて  | 東京大学大学院      | 前嶋直樹  |
| 4 職業キャリアの影響にみる高齢期の所得・資産の不平等——2015 年 SSM 調査データを用いて        | 東京大学大学院      | 麦山亮太  |
| 5 過去の健康問題が中高年層の社会経済的不平等に与える影響——2015 年 SSM 調査データを用いた分析    | 東北学院大学       | 神林博史  |
| 6 自営専門職の所得構造の趨勢——1955 ~ 2015 年 SSM 調査データを用いた検討           | 東京大学         | 仲修平   |
| 7 世代間移動と階層帰属意識——1955 年~2015 年 SSM データを用いて                | 早稲田大学<br>大学院 | コンアラン |

権力・政治

教室 ガラス棟 101  
司会者 市川正彦 (松山大学)

- |   |                  |       |
|---|------------------|-------|
| 1 浜岡原発をめぐる地域社会の政治過程——佐倉地区対策協議会と3号機の受容過程         | 静岡大学             | 中澤高師  |
| 2 『脱原発』(脱原子力発電所)の研究——『脱原発』の概念と内包。『脱原発』から『廃原発』へ。 | 中国瀋陽師範学<br>院社会学系 | 宮内紀靖  |
| 3 近代的統治戦略としての〈均衡化〉——人口方程式の編成と政策論への導入            | 法政大学大学院          | 山田唐波里 |
| 4 1970年代の社会的養護政策転換の試みと挫折                        | 東京大学             | 成澤柊子  |
| 5 政策転換をめぐる社会運動と政治過程——福島第一原発事故以降の原子力政策の事例から      | 北海道大学            | 河野行宏  |
| 6 市民セクターとの「協働」をめぐる環境政策史                         | 立命館大学            | 藤田研二郎 |

## 社会運動

教室 ガラス棟 301  
司会者 長谷川啓介 (江戸川大学)

- |   |  |                           |                      |
|---|--|---------------------------|----------------------|
| 1 | Protesting to whom?—The post-Fukushima protests in a society without effective political opposition    | Kumamoto University       | Mitchell Andrew Neil |
| 2 | 反公害運動における環境権とその空間的編制——豊前火力反対運動を事例として   | 早稲田大学                     | 田中裕                  |
| 3 | 香港で社会運動に参加したインドネシア人家事労働者による「価値の創造」と帰国後のライフコース選択  | 天理大学                      | 澤井志保                 |
| 4 | ヴェネツィアにおける大型客船反対運動の研究  | 神戸大学大学院                   | 大川内晋                 |
| 5 | Strategic Positions of Artists as Political Actor towards Minjung Art as Symbolic Order in South Korea | Seoul National University | Jung Pil Joo         |
| 6 | 戦後自立演劇運動における「自立」と「連帯」  | 一橋大学大学院                   | 長島祐基                 |
| 7 | 地方自治体発の政策イノベーションと SNS——渋谷区「同性パートナーシップ条例」の政策決定過程を事例に  | 慶應義塾大学大学院                 | 横尾俊成                 |

## 文化・社会意識 (5)

教室 法文1号館 115  
司会者 辻泉 (中央大学)

- |   |  |        |       |
|---|--|--------|-------|
| 1 | 「サブカルチャー」において歴史を論ずる意味に関する考察——大塚英志の言論におけるおたく批評の位置づけを事例として |        | 永田大輔  |
| 2 | カルチャーとしてのディズニー——ディズニー受容の日米比較から見えるもの                      | 関東学院大学 | 新井克弥  |
| 3 | スポーツアニメと社会の変化  | 上越教育大学 | 小島伸之  |
| 4 | 戦後日本社会における男の友愛コードの変化——『昭和残侠传』と『仁義なき戦い』を事例として             | 京都産業大学 | 東園子   |
| 5 | 現代における昭和時代についての意識 (1) ——ある博物館の友の会会員を中心に                  | 立正大学   | 青木久美子 |
| 6 | 現代における昭和時代についての意識 (2) ——一般人を対象とした定量分析結果から                | 立正大学   | 浅岡隆裕  |

## 文化・社会意識 (6)

教室 法文1号館 314  
司会者 南田勝也 (武蔵大学)

- |   |  |                           |        |
|---|--|---------------------------|--------|
| 1 | 人は嗜好品なしで生きられるのか——インドネシアのイスラーム教徒を事例とした、混合研究法アプローチ | 成蹊大学                      | 小林盾    |
| 2 | 消費・文化としての嗜好品摂取——2016年度嗜好品と社会関係資本に関する調査を用いた分析から   | 公益財団法人<br>たばこ総合研究<br>センター | 橋爪裕人   |
| 3 | 文化的オムニボア論再考 ——多元的ハビトゥスと文脈効果からみたオムニボア測定の問題        | 駒澤大学                      | 片岡栄美   |
| 4 | 「寛容」概念の再検討                                       | 青山学院大学                    | 一寸木英多良 |
| 5 | 所有物と死——なぜ遺品整理業は登場したのか                            | 関西学院大学<br>大学院             | 藤井亮佑   |

宗教 (2)

教室 法文1号館 216  
司会者 櫻井義秀 (北海道大学)

- |   |                           |                        |
|---|---------------------------|------------------------|
| 1 社会福祉を实践する韓国系キリスト教会の特徴                                 | 東洋大学大学院                   | 荻翔一                    |
| 2 「チーム医療」における宗教者の役割                                     | 東洋大学大学院                   | 鈴木梨里                   |
| 3 日本におけるイスラーム団体の形成と活動の変容——イスラーム復興運動と成員の多様化に注目して         | 早稲田大学                     | 岡井宏文                   |
| 4 「善き隣人」としての妙好人   | 長崎ウエスレヤン大学                | 吉野浩司                   |
| 5 Youth and The Religious Radicalism in Indonesia       | Universitas Padjadjaran   | Muljadi Yusar          |
| 6 Mourning Rituals among Shi'ite Muslims Kashmir Valley | Aligarh Muslim University | Shahnawaz Hussain Bhat |
| 7 2016年夏のブルキニ論争の分析——1989年から2004年のヴェール論争と比較して            | 東京大学大学院                   | 田中浩喜                   |

福祉・保健・医療 (3)

教室 法文1号館 113  
司会者 野口裕二 (東京学芸大学)

- |   |                                   |                             |
|---|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 米国の尊厳死と支援者の困難——オレゴン州とワシントン州における支援組織への聞き取り調査から       | 鹿児島大学                             | 片桐資津子                       |
| 2 当事者が支援するということ——専門職支援との対比調査に向けて                      | 成城大学                              | 南保輔                         |
| 3 ケアを通じた財産管理の社会化——成年後見制度の利用の広がりの中から                   | 日本学術振興会                           | 税所真也                        |
| 4 疾病や障害の当事者の意思決定支援をめぐる領域横断的議論の論点——「コンテキスト」と「自己理解」への着眼 | 国立保健医療科学院                         | 松繁卓哉                        |
| 5 発達障害者の就労支援と福祉レジームの変容——4カ国の比較から                      | ○金沢大学<br>金沢大学<br>名古屋外国語大学<br>金沢大学 | 田邊浩<br>松田洋介<br>竹内慶至<br>眞鍋知子 |
| 6 障害者支援活動における共同性の形成——障害者をめぐる地域活動を事例に                  | 一橋大学大学院                           | 加藤旭人                        |
| 7 地域における障害児親の会が有する機能について——宮崎県の障害児・障害児家族の団体Aを事例として     | 九州大学大学院                           | 山下亜紀子                       |

福祉・保健・医療 (4)

教室 法文1号館 217  
司会者 前田泰樹 (東海大学)

- |  |                                      |                             |
|--|--------------------------------------|-----------------------------|
| 1 地域における生活課題の顕在化に関する研究                               | ○大阪市立大学<br>北海道総合研究調査会                | 野村恭代<br>切通堅太郎               |
| 2 遺伝性疾患の発病リスクの子への告知——遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)を事例に         | ○東京大学大学院<br>東京大学医科学研究所<br>東京大学医科学研究所 | 李怡然<br>武藤香織<br>吉田幸恵         |
| 3 医師の個人属性と年休取得の因果関係に関する考察                            | ○松山大学<br>明治大学<br>松山短期大学<br>熊本大学      | 井草剛<br>水野勝之<br>竹田英司<br>中川輝彦 |
| 4 EBMと診療ガイドラインの先端性                                   |                                      |                             |
| 5 医療機能の分化・連携策の現状と課題——かかりつけ医の普及定着策を事例として              | 防衛医科大学校                              | 金子雅彦                        |
| 6 診療における資源と主題としての先行受診報告——医学的に説明されない症状(MUS)を持つ患者の事例から | ○大阪教育大学<br>関西外国語大学<br>関西医科大学         | 串田秀也<br>川島理恵<br>阿部哲也        |

福祉・保健・医療 (5)

教室 法文1号館 311  
司会者 佐藤恵 (法政大学)

- |   |         |       |
|---|---------|-------|
| 1 労働統合型社会的企業の組織フィールドの(半)構造化——就労支援組織への新制度派組織論の適用 | 明治学院大学  | 米澤旦   |
| 2 がん患者の自己アイデンティティの再帰的構成——がん患者の就労に関するインタビュー調査から  | 大正大学大学院 | 河田純一  |
| 3 社会的排除/包摂概念の検討——「生産性」に包摂される人びと                 | 立正大学大学院 | 石田裕美子 |
| 4 看護の専門性に関する考察                                  |         | 宇野点子  |
| 5 SBMA と 老い 衰え ゆく こと ・ ALS ・ ハンチントン 病 の 比較      | 法政大学大学院 | 木矢幸孝  |
| 6 専門家による患者の生活誌を使用した病いの理由づけ実践——訪問マッサージを事例として     | 東京大学大学院 | 坂井愛理  |

性・ジェンダー (4)

教室 ガラス棟 102  
司会者 篠原千佳 (桃山学院大学)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 性的マイノリティをとりまく地域環境と時代変化——「世界価値観調査」から見る寛容性、ジェンダー規範、ソーシャル・キャピタル                                  | 明治学院大学                                    | 石原英樹  |
| 2 マイノリティ研究における文化表象の位置づけと課題——LGBT 関連資料のアーカイブス化の現状から  | ○早稲田大学<br>東京電機大学                          | 志田哲之<br>柳原良江                                |
| 3 Sexuation and Sexuality in Psychoanalysis   | Nagasaki Institute of Applied Science     | 古川 直子                                       |
| 4 Intertwining Femininities and Masculinities at Drag (Josou) Performances Among Japanese Youth | ○お茶の水女子大学<br>東京大学<br>東京大学                 | 宮崎 あゆみ<br>Gavin Furukawa<br>Shunsuke Nozawa |
| 5 What is "Gayness?"  | Kobe University                           | HUGHES<br>Phillip                           |
| 6 児童養護施設における性的マイノリティの子どもの存在とその環境——児童養護施設 LGBT 児童対応調査の結果から (1)                                   | ○金沢大学<br>静岡大学<br>埼玉大学<br>レインボーフォ<br>スターケア | 岩本健良<br>白井千晶<br>渡辺大輔<br>藤めぐみ                |
| 7 児童養護施設における性的マイノリティの子どもへの職員の対応について——児童養護施設 LGBT 児童対応調査の結果から (2)                                | ○静岡大学<br>金沢大学<br>埼玉大学<br>レインボーフォ<br>スターケア | 白井千晶<br>岩本健良<br>渡辺大輔<br>藤めぐみ                |

子ども・青年・中高年

教室 ガラス棟 402  
司会者 轡田竜蔵 (吉備国際大学)

- |  |         |       |
|--|---------|-------|
| 1 家族らしくあることと保育——家族する時間を支える保育実践               | 明星大学    | 石田健太郎 |
| 2 読書感想文をめぐる言説空間の社会学的研究                       | 京都大学大学院 | 磯辺菜々  |
| 3 不登校の児童期の体験に基づいた類型化——潜在クラス分析を用いて            | 大阪大学    | 井出草平  |
| 4 〈地元〉に住む若者たち——大分の町を事例として                    | 長崎大学    | 中島ゆり  |
| 5 地方に暮らす若者と公共性——離島・大崎上島町在住の若者の政治意識研究         | 名古屋大学   | 竹内陽介  |
| 6 トランジションの危機と若者のセルフ・ナラティブ——韓国若者世代の「剰余遊び」を中心に | 常葉大学    | 福島みのり |
| 7 高齢者の余暇活動と参加の可能性について——高齢者団体の活動と健康体操の調査から    | 立教大学    | 中溝一仁  |

民族・エスニシティ (4)

教室 法文1号館 211  
司会者 林玲美 (武蔵大学)

- |  |         |      |
|--|---------|------|
| 1 中国北京におけるモンゴル民族移民二世の社会統合——文化的アイデンティティをめぐる   | 長崎大学    | 賽漢卓娜 |
| 2 モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの経時的変化——第2回・第3回・第4回アジア・バロメータ調査データ分析による検討                            | 高知大学    | 湊邦生  |
| 3 多文化主義政策と移民のナショナルアイデンティフィケーション  | 東北大学大学院 | 五十嵐彰 |
| 4 多文化支援と当事者支援の関係性——長野県飯田市を事例として  | 上智大学大学院 | 伊吹唯  |
| 5 「多文化主義の後退」仮説に関する一考察  | 北海道大学   | 樽本英樹 |
| 6 ヘイトが違法になるとき——ヘイトスピーチ解消法制定をめぐる政治過程  | 徳島大学    | 樋口直人 |
| 7 日本人の排外意識に対する過去の移民規模の影響の分析 —— 「国勢調査」Tohoku University GONGSHUN と「国際化と市民の政治参加に関する世論調査」に基づく分析 |         |      |

テーマセッション 16 社会学とマンガ研究——個人と集団・組織

教室 法文1号館 310  
司会者 茨木正治 (東京情報大学)

- |  |               |             |
|--|---------------|-------------|
| 1 マンガ読解におけるコミュニティ内で共有されたリテラシー (1) —— マンガ読者は「何を」「どのように」読み取っているのか? | ○立教大学<br>立教大学 | 池上賢<br>足立加勇 |
| 2 マンガ読解におけるコミュニティ内で共有されたリテラシー (2) —— キャラクター・物語を構築するリテラシーと技術      | ○立教大学<br>立教大学 | 足立加勇<br>池上賢 |
| 3 貴方は「仲間」なのか?それとも「親友」なのか?——マンガにおける戦闘美少女の仲間意識と集団構造について            | 名古屋大学<br>大学院  | 孫旻喬         |
| 4 韓国日常トゥーンに表象される青年世代の感情の構造の変化                                    | 東京大学          | 金イエジ        |
| 5 ギャグとストーリーのあいだ —— マンガのジャンル分析に矛盾許容論理を導入する                        | 椋山女学園大学       | 鎌田大資        |

テーマセッション 17 専門知の「コミュニケーション」的転回批判——科学技術と  
 社会の界面にて  
 教室 法文1号館 312  
 司会者 小松丈晃 (東北大学)

- |  |              |       |
|--|--------------|-------|
| 1 ハイブリッド・メディア環境における科学的専門知                                      | 早稲田大学        | 田中幹人  |
| 2 リスクディスコミュニケーションが生みだす食への不安——「コミュニケーション」の狭隘な理解はいかにして可能か        | 東京国際大学       | 柄本三代子 |
| 3 学問的な多様性／一様性と専門家による社会的発信の多様性／一様性——放射線影響に関わる科学者集団に注目して         | 関西学院大学       | 立石裕二  |
| 4 福島損害賠償の費用負担拡大をめぐる公的議論の分析——新電力への負担拡大はどのように決定されたか              | 京都光華女子<br>大学 | 定松淳   |
| 5 高レベル放射性廃棄物処分政策における「構造災」再生産メカニズムの検討(2)——「理解活動」主義が再生産する政策の失敗軌道 | 東京電機大学       | 寿楽浩太  |
| 6 科学をめぐるコミュニケーション政策の構造災的課題——先端生命科学を巡る事例から                      | 成城大学         | 標葉隆馬  |

テーマセッション 18 Becoming “Victims” ——「被害者」になるプロセスの社会的検討  
 教室 法文1号館 317  
 司会者 佐藤哲彦 (関西学院大学)

- |  |               |      |
|--|---------------|------|
| 1 参照される被害としての「チェルノブイリ」——日本における新聞報道の分析から          | 福岡女子短期<br>大学  | 加藤朋江 |
| 2 “被害(者)”の再構成——ハンセン病「家族」の国賠訴訟から                  | 東北学院大学        | 黒坂愛衣 |
| 3 「薬害」概念の下で連帯する被害者——「薬害 HIV」問題にみる被害者の多様な結びつきの可能性 | 和歌山県立医科<br>大学 | 本郷正武 |
| 4 自死遺族たちの語りにくさ——当事者と被害者                          | 亜細亜大学         | 有末賢  |

テーマセッション 19 方法としての構築主義の遺産を査定する  
 教室 ガラス棟 201  
 司会者 松木洋人 (大阪市立大学)

- |   |         |      |
|---|---------|------|
| 1 ブランクスレート・マキャヴェリの知性・欺瞞——社会生物学による社会構築主義の否定と吸収       | 奈良大学    | 尾上正人 |
| 2 Joel Best のレトリック分析を応用したクレイムの相互作用の分析               | 東京大学    | 佐藤寿昭 |
| 3 社会問題の構築主義における「専門家」に関する再検討——A. アボットの専門職論の考察をとおして   | 筑波大学大学院 | 岡村逸郎 |
| 4 問題経験の社会学再考——〈ギャンブル依存症〉の問題経験をめぐるナラティブ・ワークから考える     | 立教大学    | 福重清  |
| 5 役割アイデンティティとパーソンフッドの達成——ゴフマンに拠って“自己の構築”アプローチを再構成する | 関西大学    | 中河伸俊 |

テーマセッション 20 エスノメソドロジーと会話分析の半世紀(3)

教室 ガラス棟 203  
司会者 秋谷直矩 (山口大学)

- |   |                          |                                    |
|---|--------------------------|------------------------------------|
| 1 Changes in conversation analytic approach to medical interaction                                      | Kansai Gaidai College    | 川島理恵                               |
| 2 Audience Participation in Political Interaction   | Kansai University        | IKEDA Keiko                        |
| 3 心配と安心の道徳的構成——感情・知識・検査   | 千葉大学                     | 西阪仰                                |
| 4 (Re)constructing epistemic status——Some techniques for legitimizing an epistemic claim in interaction | Japan Women's University | Hayano Kaoru                       |
| 5 Making an Inference on Emotions——Practice of Being on One's Side in the Group Meeting                 | Tamagawa University      | 黒嶋智美                               |
| 6 Communicating Exome Sequencing Results in the Clinic  | ○UCLA<br>UCLA            | Tanya Stivers<br>Stefan Timmermans |

テーマセッション 21 ムスリム移動者とその子孫の社会学

教室 ガラス棟 305  
司会者 店田廣文 (早稲田大学)

- |  |        |      |
|--|--------|------|
| 1 社会統合モデルとしての「British Muslim」——移民第二・三世代ムスリムのアイデンティティ | 近畿大学   | 安達智史 |
| 2 1990年代初頭フランスにおけるムスリム移民1世・2世の若者の宗教的飲食制限の関連要因        | 早稲田大学  | 小島宏  |
| 3 地域における外国人とムスリムへの受容に関する研究                           | 環太平洋大学 | 村田久  |
| 4 ハラル認証とムスリム観光客誘致——認証取得推進派と非推進派の比較分析                 | 愛知学院大学 | 竹下修子 |

研究活動委員会企画テーマセッション 10 社会調査法研究の新しい展開

教室 法文1号館 215  
司会者 轟亮 (金沢大学)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| 1 社会調査における品質管理の方法——訪問面接調査員の実査管理を中心に                         | 立教大学  | 村瀬洋一   |
| 2 調査員の性別が性別役割分業意識に与える影響について——SSP2015 データを用いた分析              | ○金沢大学<br>統計数理研究所                                    | 小林大祐<br>前田忠彦                                 |
| 3 従来型個別面接法調査における面接所要時間の分析——CAPI型調査との比較を目的として                | 統計数理研究所   | 前田忠彦   |
| 4 アメリカ3州ウェブ調査回答者の属性に関する研究 ——Ameican Community Survey との比較より | 金沢大学  | 伊藤大将   |
| 5 ウェブ法回答における使用機器の影響——アメリカ3州ウェブ調査データより                       | お茶の水女子大学  | 杉野勇  |
| 6 Web 調査の偏りは非回答によるか、標本抽出フレームによるか——二つの比較実験調査より               | ○奈良大学<br>青森公立大学<br>奈良大学<br>青森大学<br>秋田県立大学<br>八戸工業大学 | 吉村治正<br>佐々木てる<br>正司哲郎<br>澁谷泰秀<br>渡部諭<br>小久保温 |

研究活動委員会企画テーマセッション 11 公的統計を利用した二次分析——その展開と可能性を探る  
 教室 ガラス棟 204  
 司会者 香川めい (東京大学)

- |   |                             |                     |
|---|-----------------------------|---------------------|
| 1 世代特性から見た生活行動と生活時間の関連性についての実証分析                        | 中央大学                        | 伊藤伸介                |
| 2 余暇時間の構造とその社会経済的背景——社会生活基本調査の個票データを用いた実証分析             | ○東京大学<br>東京大学               | 石田賢示<br>佐藤香         |
| 3 高齢期における介護と生活時間——『社会生活基本調査』をもちいた2次分析                   | 成蹊大学                        | 渡邊大輔                |
| 4 男女別社会経済指標の構築——就業構造基本調査と2015年SSM調査データを用いて              | 東京大学                        | 藤原翔                 |
| 5 国勢調査のオーダーメイド集計に基づく職業データの利用——性・年齢・学歴に基づく職業間距離の多次元構造の析出 | ○奈良女子大学<br>首都大学東京<br>首都大学東京 | 林拓也<br>斉藤裕哉<br>中尾啓子 |

研究活動委員会企画テーマセッション 12 学際性、もしくは当事者との協働における質的研究  
 教室 ガラス棟 404  
 司会者 伊藤智樹 (富山大学)

- |   |              |      |
|---|--------------|------|
| 1 当事者としてライフストーリーを聴き話すことのか——いかに性感染 HIV 陽性者の声を紡ぐことができるか | 一橋大学         | 大島岳  |
| 2 エイブリズム社会を生きながら、問い返す                                 | 立教大学         | 矢吹康夫 |
| 3 エンパワメント型アートセラピーの社会的構築——心理療法・芸術諸学・エンパワメント科学と社会学との対話  | 神戸医療福祉<br>大学 | 兼子一  |
| 4 ディスアビリティのエスノメソドロジー——精神障害・発達障害当事者との連携について            | 三重県立看護<br>大学 | 浦野茂  |

## 日中ジョイントパネル 「都市開発と社会空間」

教室 法文 2 号館 1 番大教室  
司会者 伊藤公雄 (京都産業大学)

- 1 1980 年代以降の国家による都市介入と都心自治体の対応——建築規制緩和の帰結 桃山学院大学 上野淳子
- 2 現代日本における格差拡大と東京圏の空間構造 早稲田大学 橋本健二
- 3 社区組織と公共参与 Tsinghua University Zheng Lu

## 招待講演

教室 法文 2 号館 2 番大教室

第 16 回日本社会学会奨励賞 論文の部

受賞者 松岡瑛理

受賞作品：

「ヘイトスピーチに対抗する境界的マイノリティ：カウンター活動に加わる「在日」帰化者／ダブルへの聞き取り調査から」『ソシオロジ 60・3』

講演タイトル：

『在日研究』に感じた絶望と希望

司会者：鶴 理恵子 (跡見学園女子大学)

第 16 回日本社会学会奨励賞 著書の部

受賞者 榎原賢二郎

受賞作品：

『社会的包摂と身体——障害者差別禁止法制後の障害定義と異別処遇を巡って』生活書院

講演タイトル：

障害理論と構築主義——『社会的包摂と身体』再論

司会者：奥村 隆 (関西学院大学)

ポスターセッション (11月5日(日) 10時30分～13時00分)

教室 山上会館2階会議室 201・202 (1～12) 203 (13～17)

- |    |  |                                   |               |
|----|--|-----------------------------------|---------------|
| 1  | 若者の国境を越える移動とキャリア——欧州へ渡る料理人の調査から                                      | 明治大学                              | 藤田結子          |
| 2  | 中国人におけるショッピングと幸福の関連——伝統志向の調整効果についての検証                                | ○筑波大学<br>大学院<br>筑波大学              | 倪少文<br>石井健一   |
| 3  | フィンランド・ネウボラに見る子どもの虐待・貧困の予防——予防の意義と援助方法に焦点をあてて                        | 田園調布学園<br>大学                      | 太田由加里         |
| 4  | 社会ガバナンスのグラムシ主義的解釈——J.S. デーヴィスのガバナンス論批判を中心に                           | 中部学院大学                            | 福地潮人          |
| 5  | 地域連携デジタル・ネットワークに関する研究——「灰干しがつなぐ地域再生ネットワーク」を事例として                     | 大妻女子大学                            | 干川剛史          |
| 6  | 生殖補助医療の今日的な普及を方向付けた社会的要因——2000年代初期の医師の意見と行動からの検討                     | 大阪大学                              | 竹田恵子          |
| 7  | プロテストを受容する政治文化に関する実験的研究——Factorial Surveyによる検討                       | 山形大学                              | 山本英弘          |
| 8  | キャリア女性の化粧行為について  | 名古屋工業大学                           | 乙部由子          |
| 9  | 都市化に伴う農地の生活保障的機能の「揺らぎ」についての再考——中国広東省珠江デルタ地帯の事例研究                     | 岩手県立大学                            | 劉文静           |
| 10 | 何が階級的ヒエラルキーの自明性を支えるのか?——職業威信評定の間主観的な一致度と中心/周辺                        | 京都大学                              | 太郎丸博          |
| 11 | 直系家族制から夫婦家族制への移行に関する研究——主観的家族の範囲を事例として                               | 大阪経済法科<br>大学                      | 乾順子           |
| 12 | 労働組合と非正規労働者——パートの比率に着目する   | 京都大学                              | 郭云蔚           |
| 13 | 1960年代における日本人の意見の多様性——Verba et al. “Political Participation” 調査の2次分析 | 関西大学                              | 間淵領吾          |
| 14 | DDIRを利用した効率的な社会調査 Data Life Cycle                                    | 関西学院大学                            | 中野康人          |
| 15 | ドイツにおける学生の職業展望   | お茶の水女子<br>大学大学院                   | 山本菜月          |
| 16 | エンパワメント型アートセラピーの構成要件と評価方法——その適用範囲と可能性                                | ○甲南大学人間<br>科学研究所<br>ライフスキル<br>研究所 | 石原みどり<br>小村みち |
| 17 | 現代日本の階層構造の社会空間的布置——2015年「社会階層と社会移動に関する全国調査」データを用いた分析から               | ○中京大学<br>中京大学                     | 堀兼大朗<br>相澤真一  |

中国社会学学会長講演 (11月5日(日) 13時20分～14時00分)

教室： 法文2号館 1番大教室

Coordination Mechanism, Domination Structure, and Income Distribution: Fudan LIU Xin  
Social Stratification in Transitional China University

シンポジウム (11月5日(日) 14時00分～17時30分)

シンポジウム(1) 社会学の中の質的研究、社会の中の質的研究

教室 法文2号館 1番大教室  
司会者 石川良子 (松山大学)  
小宮友根 (東北学院大学)

- |                                   |       |      |
|-----------------------------------|-------|------|
| 1 社会調査としてのナラティブ・アプローチを特徴づける       | 富山大学  | 伊藤智樹 |
| 2 エスノグラフィーと時間感覚——マニラの都市底辺層の事例をもとに | 北海道大学 | 石岡丈昇 |
| 3 「社会学的記述」と概念分析                   | 東海大学  | 前田泰樹 |

討論者：筒井淳也 (立命館大学)、湯川やよい (東京女子大学)

シンポジウム(2) 若者の親密性の変容

教室 ガラス棟 101  
司会者 浅野智彦 (東京学芸大学)  
羽濑一代 (弘前大学)

- |                       |        |       |
|-----------------------|--------|-------|
| 1 優生学運動を通して見る種・国家・親密性 | 明治学院大学 | 加藤秀一  |
| 2 恋愛の不在と結婚なき人生設計の不在   | 日本女子大学 | 永井暁子  |
| 3 若者と「性的なこと」との距離      | 活水女子大学 | 石川由香里 |

討論者：森山至貴 (早稲田大学)、大澤真幸 (社会学者)

開催校 (東京大学) シンポジウム「公共性の危機と知の再創造」

教室 法文2号館 2番大教室  
司会者 出口剛司 (東京大学)  
小山 裕 (東洋大学)

- |                           |      |       |
|---------------------------|------|-------|
| 1 技術革新が描く社会と大学——その性格を問い直す | 日本大学 | 広田照幸  |
| 2 「ポスト真実」時代における知と哲学       | 東北大学 | 野家啓一  |
| 3 構造災を越えて——公共知と社会学        | 東京大学 | 松本三和夫 |

討論者：関 礼子 (立教大学)、金野美奈子 (東京女子大学)